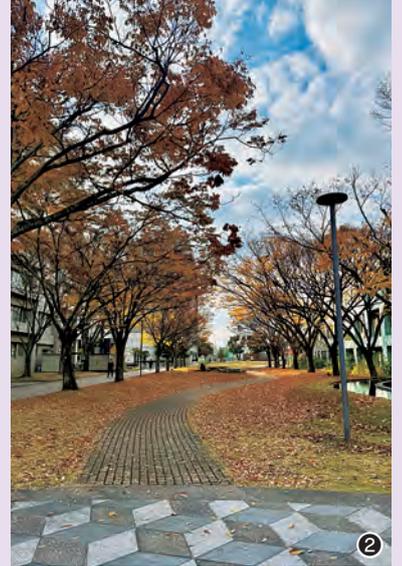


同窓会報



①



②



③



④



⑤



⑥



- ① 大学正門
- ② 秋の大学構内
- ③ 第74回愛媛大学学生会
- ④ ネーミングライツ事業により愛称がついた
コロボハウスホール（グリーンホール）
- ⑤ 保存工事が終了した道後温泉
- ⑥ 世界とつながる愛大

愛媛大学文理学部人文学科及び法文学部同窓会

〒790-8577 松山市文京町3番 愛媛大学法文学部内 tel.090-1002-6376

E-mail:support@ehime-u-houbun-dousoukai.com [HP] https://ehime-u-houbun-dousoukai.com



各支部総会のお知らせ

中国支部

2025年9月13日(土)

総会：15:00～

場所：広島ガーデンパレス

会費：5,000円

(2021年3月～2025年3月卒業生は無料)

※参加を希望される方は、下記へご連絡ください。

担当：難波携帯 090-7777-6671

四国支部

2025年11月8日(土)

総会：13:00～

場所：リジェール松山

会費：5,000円

※参加を希望される方は、会報に同封のアンケートハガキにチェックを入れて10月15日(水)までにご投函ください。

※同窓会メールアドレスからもお申込みできます。

E-mail:support@ehime-u-houbun-dousokai.com

関西支部(にきたつ会)

2025年11月16日(日)

総会：12:00～

場所：大阪ガーデンパレス

会費：5,000円

同窓会へ寄付をお願いいたします

1,358,000円 総数313名

(2025年3月31日現在)

2024年度もたくさんのご寄付をいただき、ありがとうございました。有効に使わせていただきます。

※16・17ページに寄付者一覧と応援メッセージを掲載しています。

「ふるさと応援制度」を6年前から導入しました。

「〇〇支部へ寄付」と記載された方の寄付額の半分以上を指定された支部に交付しました。

引き続きこの制度を活用して、支部活動への支援をお願いします。本部でも、寄付や本部会計の中から支部活動を支援しております。

また、法文学部学生支援のため、愛媛大学基金へ100万円を寄付しました。法文学部生の海外派遣に役立てられています(8P「青い地球交流記」をご覧ください)。

プレゼント廃止のお知らせ

2025年度より、物価高騰及び郵便料金値上げの影響を受け、大変心苦しいところではありますが、ご寄付いただいた方々への返礼品(プレゼント)を廃止させていただきます。

今後はプレゼントに充てていた予算を新卒業生・新入生に対する記念品を贈るなど、母校の学生に対して使わせていただく予定です。

同窓会報の郵送停止をご希望される方は、アンケートハガキの にチェックを入れてご返送ください。同窓会報は同窓会ホームページでもご覧いただけます(アドレスは表紙にあります)。

目次



愛媛大学
EHIME UNIVERSITY

法文学部同窓会報
第29号

各支部総会案内/ 寄付(返礼品廃止のお知らせ).....	2
学生アンバサダー/総会報告/学歌.....	3
新三役あいさつ.....	4
卒業式/入学式.....	5
支部だより.....	6
青い地球交流記.....	8
理事会報告.....	9
遍路でつなぐ江戸時代の伊予と阿波.....	10
俳句投句 選句結果発表&講評.....	12
校友会.....	13
卒業生から.....	14
寄付者御芳名一覧.....	16
応援メッセージ/Q&A.....	17
同窓生からの寄稿文 まだまだ旅の途中/まほろばウォーキング.....	18
輝かしき青春の日々.....	19

提供講座『社会と人間』報告.....	20
講師の方に感想をお聞きました!.....	21
退職された教員の方々.....	22
人事異動.....	24
サークル紹介.....	25
学生アンバサダーのページ.....	26
研究室紹介(社会科学・田川靖紘先生).....	28
(人文学・高橋千佳先生).....	29
Career Report.....	30
パズル/感想/編集後記.....	32

題字：柴田 祐昭
(文理学部人文学科史学専攻・第8回卒)
[明楽寺住職・元愛媛県美術会理事長]

柴田祐昭さんは2024年12月10日に逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。
※法文学部同窓会報では、引き続き柴田さんの題字を表紙に掲載いたします。

学生アンバサダー

3名の新メンバーがアンバサダーに就任しました！



上段左から／鳥生副会長、黒河会長、
下段左から／影山さん(3回生)、
樋口さん(2回生)、寺川さん(3回生)

メンバーも新たに2025年度も
アンバサダーに活躍していただきます！



アンバサダーページは
会報が若返ったと大好評!!

第17回 法文学部同窓会 総会報告



2024年11月10日(日)にホテルマイステイズ松山で開催いたしました。前総会が新型コロナウイルスの影響で会場開催が出来ませんでしたので6年ぶりの対面開催となりました。

報告事項・審議事項は下記のとおりです。

(報告事項) 同窓会員数の動向／決算・予算報告／寄付報告／支部活動報告／理事会開催報告／3年間の事業活動のまとめ

(審議事項) 次期3年間の重点課題と事業活動方針／役員改選

審議事項は全て承認され、2024年12月31日をもって松本長彦会長以下7名の理事が退任され、2025年1月1日から黒河安德新会長を中心とする新しい理事による体制がスタートいたしました。



愛媛大学学歌

1. 伊予の高嶺の 尾根にそひ
立てる群山に 花咲きつき
雲とぎすとも 雲分けて
求めむ高き 遠きもの其を

2. 瀬戸の内海の 磯つなぎ
ならば砂浜に 鳥飛びかひ
波あらぶとも 波越えて
究めむ深き 博きこと其を

3. 二名愛媛の 名をしたひ
つどふ友たちよ 空晴れたり
いざあらた代の 図負ひて
明るき道を ただに進まむ

作詞…井手淳二郎
作曲…下総 暁一

QRコードを読んで
学歌を聴こう!!

QRコードを読んで
同窓会のHPからボタンを押すと、
愛媛大学の学歌が流れます。



新三役あいさつ

2025年から新体制になりました。
3年間よろしく申し上げます。



法文学部同窓会会長
黒河 安德
(1986年経済学科卒)

本年1月より同窓会長を拝命いたしました黒河安德です。

会長就任にあたり、これまでの同窓会活動に対する歴代役員のご尽力ならびに同窓生各位のご協力に敬意を表し一言ご挨拶申し上げます。

かく言う私も、同窓会活動にはまったく無関心でした。そんな私が、なぜ同窓会活動に携わることとなり、松本前会長から同窓会長という重責を引き継ごうと思ったのか、その一端をご説明させていただきます。

きっかけは、平成22年、同窓会提供講座「社会と人間」の講師を紹介頂いたことでした。当時、政府はTPP交渉参加検討を表明した所で、農業団体(JA)で農政を担当していた私は、200名近い学生と地域経済について討論することとなりました。学生との討論は、大きな刺激と運動構築のヒントとなりましたが、現役学生には、せっかく愛媛・松山で学んでいるのだから、東京発でない、地域発の視点で時事ニュースを判断してもらいたいとも思いました。

その後、いささか消化不良を感じていた所に同窓会理事就任を打診され、理事会に加えて頂きました。運営協議の傍ら、小池会長、西田会長、松本会長をはじめとする執行部・理事の皆様からは、様々な仕事の魅力、研究の醍醐味を感じるとともに、国立大学法人化以降の運営や予算折衝の厳しさ等も感じてきました。

このように、同窓会提供講座「社会と人間」を契機に愛媛大学との関係が再開したのですが、大学生との討論によって、「地域に拘るべき」との自分の仕事の立ち位置も確認でき、今となっては、しみじみと同窓会の良さを感じます。又、同窓生を通じて知る企業や団体には何かしら“親しみ”の感情も抱きます。

同窓会提供講座「社会と人間」は、現役学生にとっては、実業社会との接点ですが、我々卒業生にとっても、「母校は、いつまでも素晴らしくあって欲しい」「そのためにできることはやりたい」そんな卒業生誰もが持つ感情の結節点となるものです。その思いは、必ずや同窓会活動の興隆に繋がることでしょう。

幸い技術の進歩やコロナ禍での行動変容により、大学の授業もオンラインやWEBの活用等可能性は大きく広がりました。今年からは、各地支部の卒業生に現地から講義をお願いすることといたしましたので、少しでも多くの卒業生に興味と関心を持ってもらえれば幸いです。

一朝一夕には、難しいと思いますが、同窓のきずなが感じられるような活動をめざし執行部全員で議論し行動したいと考えておりますので皆様には、引き続きご支援・ご協力をお願い申し上げます、就任のご挨拶いたします。



法文学部同窓会副会長
吉田 一恵
(1979年法学科卒)

同窓生の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

このたび、愛媛大学法文学部同窓会の副会長を拝命いたしました吉田一恵と申します。

これまで同窓会活動に深く関わる機会はありませんでしたので、突然のご指名には正直驚きと戸惑いもございました。しかし、多くの同窓生の皆様に支えられてきたこの同窓会の歴史と意義を思い、身の引き締まる思いでお引き受けいたしました。微力ながら、同窓生の皆様とご縁を大切にしながら、誠心誠意努めて参りたいと存じます。

私は愛媛大学を卒業後、文部事務官として愛媛大学に任官し、「国民の公僕になる」との宣誓書に署名のうえ、国立大学法人化を経て、令和4年3月まで42年間勤務いたしました。在職中は、時代の流れとともに「男女共同参画」という言葉が社会に広まり始めた時期でもあり、私自身、愛媛大学で女性として初めて人事課長、さらには部長職・教育学生支援部長を務めるという経験をさせていただきました。「学びの場」を支える立場として長年関わられたことは、私の誇りであり、人生のかけがえのない財産です。

現在は定年退職後のご縁により、隣接する人間環境大学にて事務局長を経て、現在、副学長として大学運営に携わっております。立場が変わっても、「人を育てる場」に関わり続けていることに、日々やりがいと責任を感じております。

こうした歩みを振り返る中で改めて感じるのは、学生時代を共に過ごした学び舎が、今も次世代を育て続けていることへの深い感謝と、同窓生の皆様との繋がりへの尊さです。同窓会は、その繋がりを育む大切な場であるとともに、母校への支援や貢献を実現する貴重な機会でもあります。永年大学というフィールドに身を置いてきた者として、今後は同窓会と母校との橋渡し役として少しでもお力になればと願っております。

また、同窓会の重要な役割の一つは、同窓生相互の「つながり」を深めることにあります。学生時代の仲間との再会や、世代を超えて新たなご縁が生まれることは、同窓会ならではの魅力です。会報や各種行事、SNSなどを通じて「再会」や「出会い」の機会を広げていく一助となれば幸いです。

同窓会活動にはまだまだ不慣れな私ですが、温かく迎えてくださった先輩方、仲間の皆様に心より感謝申し上げますとともに、今後も一歩一歩、誠実に取り組んで参ります。引き続き、皆様のご指導とご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

2024 (令和6)年度 卒業式

2025.3.24(月)

[学位記授与式]

10:00～

愛媛県県民文化会館
(メインホール)

法学部卒業生数

◆人文社会学科 (9月卒業者含む) (388名)

昼間主 284名 夜間主 104名

◆人文社会科学研究所 (10名)

法学専攻 法学コース 1名

法学専攻 人文学コース 9名

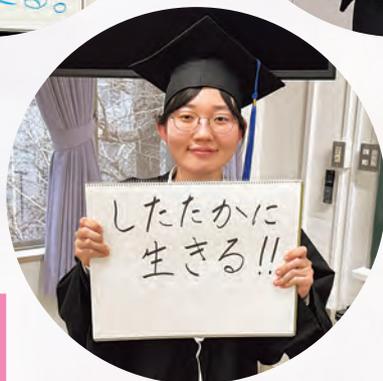


法学部生代表 日高功大さん



法学専攻代表 重松紗奈さん

法学部卒業記念祝賀会



2025 (令和7)年度 入学式

2025.4.7(月)

10:00～

愛媛県県民文化会館
(メインホール)

法学部入学者数

◆人文社会学科 (386名)

昼間主 287名 夜間主 99名

◆人文社会学科(3年次編入) (24名)

昼間主 7名 夜間主 17名

◆人文社会科学研究所 (6名)

法文学専攻 法学コース 2名

法文学専攻 人文学コース 4名



式辞を述べる
仁科弘重学長

支部だより

関東支部 [東京章光会]

東京章光会総会



令和7年7月5日(土)に東京章光会(愛媛大学法文学部同窓会関東支部)第58回定期総会を大手町サンケイプラザで開催しました。

熱中症も心配される猛暑の中、来賓として黒河安德本部長、にきたつ会岸川良蔵副会長、難波宜久中国支部長、玉井周平四国支部長、同窓会学生アンバサダー2名をお招きして総勢37名の出席(合同懇親会のみ参加者もあり総勢43名)となりました。

総会では水元裕介事務局長補佐の司会のもと、清水栄治東京章光会会長の開会の辞に始まり、黒河安德会長に祝辞をいただき、続いて令和6年度の活動報告、令和7年度活動方針案、令和6年度の会計報告案、令和7年度予算案の審議を行い、提案どおり満場一致で承認されました。

役員体制が一新され、若手役員も数多く参加しました。愛媛県東京事務所との連携や、若手役員による東京章光会youth会の活動等、これまで以上に同窓会の維持・拡大に注力している所です。

定期総会終了後、4階のホールに移動して、校友会首都圏支部、工業会(工学部同窓会)東京支部、理学同窓会東京支部との合同懇親会を開催し、120名を超える参加で盛大な会となりました。

校友会首都圏支部総会では、清水栄治会長が新支部長に就任されました。また、高橋祐二校友会会長からの御挨拶も頂戴しました。

また、第58回定期総会の開催前には、愛媛大学校友会新社会人・若手社会人交流事業「全員集合 in 東京2025」がコロナ過を経て5年振りに開催され、新社会人2名を含む10名が参加しました。

今後も若手の総会参加者の拡大に若手役員を中心に取り組んでいきますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

校友会首都圏支部総会



東京章光会連絡先

会長 清水 栄治(法1981)
 携帯 090-5208-7864
 E-mail: astra.2000-1213@yahoo.ne.jp
 事務局長 大村万夢里(総政2008)
 携帯 090-9895-0525
 E-Mail: banri0924@gmail.com

関西支部 [にきたつ会]



令和6年11月24日(日)に大阪ガーデンパレスで令和6年度にきたつ会定期総会・懇親会を開催しました。

島中本部長、清水東京章光会長、難波中国支部長、玉井四国支部長、鳥生事務局長に出席いただき、8名の初参加者、ご家族を含め総勢36名で親睦を深めました。

にきたつ会は、「楽しかった、参加してよかった」と思っただけの総会・懇親会を目指しており、当日は以下の演出を企画・実施し、好評裡にお開きとなりました。

- ▶青野愛媛県大阪事務所長による観光キャンペーン「疲れたら愛媛。おかえりに出会う旅。」のご紹介。
- ▶新たな試みとして松山の懐かしい景色や大学の様子をフォトムービー「時には昔の話を」として投影。
- ▶スライドを使って愛媛県に因んだクイズ大会を開催。
- ▶愛媛県の地酒「さくらひめシリーズ」を提供、お土産には里芋かりんとう「ポリポーリ」と「みかんもち」を提供。

○奈良《まほろば》の歴史再発見ウォーキング



永尾さんの説明を受ける参加者の皆さん

令和7年5月25日(日)に恒例のウォーキングイベントを開催。ボランティアガイドで活躍するにきたつ会会員の永尾さんにガイドいただき、東大寺、春日大社、奈良公園等、奈良観光の王道コースを巡りました。昼食では老舗食事処の素麺御膳で奈良名産を堪能しました。

○関西支部会報「にきたつ通信 第2号」を発行

にきたつ会の活動を紹介し、より多くの方々にご参加いただくために会報を発行しています。関西在住の皆様には本同窓会報に同封していますので是非ご覧ください。

○令和7年度定期総会・懇親会のご案内

日時 令和7年11月16日(日) 12:00~
 場所 大阪ガーデンパレス
 会費 5,000円

関西在住の方、関西にゆかりのある方のご参加をお待ちしています。詳細は本同窓会報に同封の「にきたつ会総会・懇親会のご案内」をご覧ください。

関西支部 [にきたつ会] 連絡先

会長 島田 光照(法1979)
 携帯 080-5366-3123
 E-mail: mitsu-s@mx4.canvas.ne.jp
 事務局長: 高橋 寛(法1986)
 携帯 090-3843-8254
 E-Mail: hiro196308@ezweb.ne.jp

中国支部



中国支部では、2024年9月14日(土) ホテル広島ガーデンパレスにて、第17回定期総会と校友会中国支部との合同懇親会を開催しました。

来賓には、井口法文学部長、本部より重松副会長、東京章光会より清水会長、にきたつ会より岸川副会長、四国支部より玉井支部長、そして学生アンバサダー2名をお招きし、中国地方各方面から多くの会員に出席いただきました。

総会では、予算案や活動方針等の議案を審議、提案通り承認されました。

総会後の懇親会では、昔話に花が咲き、近況を語り合うなど大いに盛り上がり、親睦を深めました。

参加いただきました方々には、厚く御礼申し上げます。

今年は、2025年9月13日(土) ホテル広島ガーデンパレスにて15:00から総会、16:00から懇親会を開催します。

みなさま、お忙しいことと存じますが、是非ともご参加ください。

※参加受付は難波まで(2ページ参照)。

なお、広島支部は前年度から中国支部と名称を変更いたしました。

役員

顧問	竹本 義昌 (昭和33年文理学部人文乙卒)
顧問	楠本 淳 (昭和35年文理学部人文乙卒)
顧問	岡田 禎之 (昭和40年文理学部人文乙卒)
顧問	村上 道機 (昭和43年文理学部人文乙卒)
顧問	藤田 典子 (昭和53年法文学部法学卒)
顧問	品川 瑞 (平成5年法文学部法学卒)
支部長	難波 宜久 (昭和62年法文学部法学卒)
副支部長	松本 亜紀 (平成5年法文学部法学卒)
事務局長	宮浦 明久 (昭和62年法文学部経済卒)
事務局幹事	梶原 勝 (昭和63年法文学部経済卒)
事務局幹事	沖田 正博 (平成8年法文学部経済卒)
幹事	宮本 貴史 (平成15年法文学部総合政策卒)
幹事	大西 慎也 (平成18年法文学部総合政策卒)

連絡先

難波携帯：090-7777-6671

E-mail：namba87039@yahoo.co.jp

宮浦携帯：090-2084-9248

E-mail：akihisa221-aefma@ezweb.ne.jp

四国支部



議事を進める玉井支部長

第17回 総会報告

令和6年11月10日(日)13:00からホテルマイステイズ松山(松山市大手町)にて、支部総会を開催しました。玉井周平支部長の挨拶のあと議案が承認され、懇親会を行いました。法文学部から井口秀作学部長、青野治彦事務課長、本部から松本長彦会長、東京章光会から清水栄治会長、関西にきたつ会から島田光照会長、中国支部から宮浦明久事務局長に出席していただき、総勢56名が親睦を深めました。今回は3年に1度の本部総会と同時開催でした。

四国支部理事会 (お花見)

令和7年4月5日(土)すし丸(松山市二番町)にて11名が参加して春の理事会を開催しました。また理事会に先立ち、松山城を散策しました。本部・高田敬士理事のガイドで天守閣にも登り、地元の住民でも知らない松山城のあれこれを聞きました。



桜が満開でした



第18回四国支部総会のご案内

日時：令和7年11月8日(土) 13:00～

場所：リジェール松山(松山市南堀端町2-3)

会費：5,000円(懇親会費)

※同封のハガキにてお申し込み・案内請求してください。

四国支部事務局連絡先

支部長：玉井周平 携帯：090-8973-7650

E-mail：tousui78@yahoo.co.jp

事務局：山根淳一 携帯：090-7131-1670

E-mail：junmizuyamane320204@gmail.com

「青い地球交流記」(ダイジェスト版)

創刊21年目を迎え、『青い地球』がまた新たな一歩を踏み出した2024年度は、多くの法文学部生がふたたび地球のあちこちに渡航する姿が見られるようになった1年でした。そのなかから、海外実地研修(タイ)と交換留学プログラム(ルーマニア)の体験記をご紹介します。法文学部同窓会の皆様方の多大なるご支援に心より御礼申し上げますとともに、今後とも何卒どうぞよろしくお願い申し上げます。(『青い地球2024』編集長より)



海外実地研修(タイ)ふりかえりシートより

積極的に、楽観的に、失敗を恐れないこと

岡村 愛美 (3回生=掲載時、現在4回生)

タイ研修の中で様々なことが身につく、たくさんの貴重な経験をする事ができた。

はじめに、中高生対象の模擬授業では、積極的に行動することと英語を上手に話せない、コミュニケーションがうまく取れなくても失敗を恐れないこと、そして、大学で私が学習している教職課程の勉強を活かし、外国の生徒とでも同じように関わることができた。次に、日本語学科の学生との交流では、コミュニケーションを取ろうとすること、そしてお互いを知ろうと努力することの大切さを感じる事ができた。私たちは日本語で会話をしたが、お互いのコミュニケーションを図るためには、私たち日本人も彼らの話す日本語を聞き取ろうとする努力も必要となる。お互いを尊重し合い、歩み寄ろうとする姿勢が大切だと考えた。また、タイ研修中では、日本では起こらないようなハプニングや問題が発生した。そのような状況に遭遇した時に、私たちに求められるのは文化の違いを受け入れること、そして、予想外のことが起こっても動揺せず臨機応変



「ペンテル」の工場を見学させていただきました。



PIM (バンヤーンピワット経営大学)の学生にバンブーダンスを教わっています

に対応する力であると考えた。また、その文化の違いを楽しむことも良いことであると思った。タイに来たからこそ経験できた異文化はとても興味深かった。

これらの経験から、今後活かしていきたいことは大きく分けて三つある。一つ目は、全てのこと積極的に行動すること。二つ目は、楽観的に捉えること。三つ目は失敗を恐れないことだ。

タイの学生や人々に対して積極的に行動することで、自分の知見が広がったり、新たな交友関係を築くことができた。また、問題が発生した時に落ち込むのではなく次の対応を考えたり、深刻に受け止めずに楽観的に物事を捉えることで気が楽になる。何かハプニングが起こってもそれも「良い経験になる」と考え方を試してみることが、



タイの高校生との文化交流を楽しんでいます。

また、私は東南アジア地域研究を専攻しているのので、今回の研修を通して、現地に直接行く貴重な経験が出来た。文献では学ぶことのできなかつた空気感や文化、人々に触れることが出来た。この経験を忘れず自分の学びにつなげていきたい。

交換留学体験記

ルーマニア留学とヨーロッパ一人旅で広がった私の世界

伊藤 結稀 (3回生=掲載時、現在4回生)

私は2024年2月から5ヵ月間、ルーマニアのブカレスト大学に留学しました。高校生の頃から現地の文化を実際に目で見て肌で感じることを大切にしており、大学では長期留学しようと決意していました。そして今まで行ったことのないヨーロッパに留学を決めました。

渡航後も後も想定外のことだらけの留学でした。数ヵ月メールが返ってこなかったり、公的機関から誤った情報を伝えられたりや苦労も多かったです。特に大変だったことは寮生活です。寮にある洗濯機が全て壊れ、3ヵ月ほど使うことが出来ませんでした。かるうじて動く瀕死の1台の洗濯機をめぐり、狭い洗濯室で4時間待ち続けたり、他の寮生と順番をめぐって英語で口論したりすることが多くありました。さらに、夏には気温が40度近かったにも関わらず、エアコンがないため熱中症になりかけました。「海外だから」という言葉では許容できないほどの住環境はストレスでした。

しかし、それ以上に楽しかったこともあります。それは旅行です。現地到着後、思いのほか自由時間が多くあることが分かり、この時間を活用しようとヨーロッパ諸国へ旅に出ました。計10カ国ほぼ一人



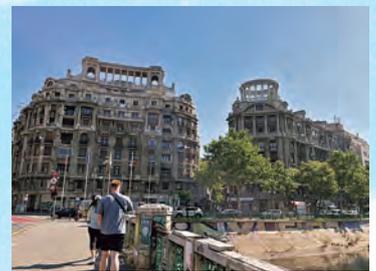
朝のエッフェル塔と私

で旅しました。国境を接するヨーロッパだからこそ、数カ国を一度に周遊し、電車で国境を超える経験もできました。また、EU連合の結束感を肌身で感じました。旅費節約のために hostel に宿泊し、多様な人々にも出会いました。特に印象に残っている国は、イタリアとスペインです。イタリアではヴェネツィアやローマなど5都市を訪れ、各都市それぞれの町の雰囲気魅了されました。スペインではバルセロナを訪れ、サグラダファミリアを見た時の感動は今でも鮮明に覚えています。

留学を振り返ると、大変な寮生活やトラブルを乗り越え、英語で粘り強く交渉する力がつき、旅の経験が私の世界を大きく広げました。海外滞在を通して日本の素晴らしさも再認識し、しんどかったことや楽しかったことすべてが今の私を形作る貴重な財産です。



ルーマニア・ブラショフ近郊にある、ドラキュラのモデルとされるブラン城



ブカレストの街並み

荘厳さに圧倒されたサグラダファミリア

愛媛大学法文学部同窓会理事会報告

2024年度 第2回(通算第93回) 理事会

日 時：2024年10月4日(金) 18:00～21:00

場 所：すし丸本店(松山市二番町2丁目3-2)

【報告事項】

1. 第28号会報発行
2. 2024年度同窓会提供講座「社会と人間」
3. 支部活動・支部長会など報告と予定
4. 大学関係行事、会長会・校友会理事会の報告と予定
5. 俳句募集の報告
6. その他

【審議事項】

1. 次期三役・理事について →承認
2. 総会について →承認
3. 今後の理事会運営について →承認
4. その他

2024年度 第17回本部総会

日 時：2024年11月10日(日) 13:00～16:50

場 所：ホテルマイステイズ松山3F ドゥエミーラ
(松山市大手町1-10-10 旧JALシティ)

【報告事項】

1. 同窓会員 会員数報告
2. 決算・予算報告(22・23・24年度)
3. 寄付報告
4. 支部活動報告
5. 理事会開催報告
6. 3年間の事業活動のまとめ

【審議事項】

1. 次期3年間の重点課題と事業活動方針 →承認
2. 役員改選 →承認

2024年度 第3回(通算第94回) 理事会

日 時：2025年2月14日(金) 18:00～21:00

場 所：リジェール松山(松山市南堀端町2-3)

【報告事項】

1. 2024年度同窓会提供講座「社会と人間」終了
2. 学生アンバサダー募集
3. 2025年度会報編集委員会
4. 支部活動・支部長会など報告と予定
5. 大学関係行事、会長会・校友会理事会 報告と予定
6. 寄付報告
7. 2024年度決算(暫定・見込み)
8. その他

【審議事項】

1. 2025年度の活動計画 →承認
2. 2025年度予算案 →一部承認
3. 今後の理事会運営について →承認
4. その他
1) 繰越金について →継続審議
2) 中・長期計画 →承認

2025年度 第1回(通算第95回) 理事会

日 時：2025年6月20日(金) 18:00～21:00

場 所：愛媛大学校友会館 2F サロン

【報告事項】

1. 2025年度アンバサダーのご紹介
2. 2025年度同窓会提供講座「社会と人間」について
3. 支部活動・支部長会など報告と予定
4. 大学関係行事、会長会・校友会理事会 報告と予定
5. 同窓会員 会員数報告
6. その他

【審議事項】

1. 2026年度提供講座「社会と人間」開講について →承認

井口法文学部長から同窓会へ要請をいただいたうえで、開講に協力することを確認しました。

2. 2025年度会報発行について →承認

概 要：A4版 32ページ

発 行 日：2025年9月上旬

発行冊数：18,000

郵送冊数：16,500程度

発 注 先：アマノ印刷(有)

編集委員：委員会名簿のとおり

3. 2024年度決算・監査報告について →承認

1) 一般会計では、会費収入は予算を4万円上回り、800万円でした。寄付金の繰り入れが100万円で、利息と合わせ、収入合計は945万2660円です。支出に関しては、予算を約24万円下回り、982万8629円でした。

2) 寄付金については、収入が132万2千円、支出は約176万3千円となりました。一般会計へ100万円繰入しています。ふるさと応援は4支部合計で19万1000円でした。4月30日(水)に監査を行いました。

4. 2025年度予算案について →承認

1) 一般会計の収入は、寄付金からの繰入金90万円を含め848万円程度が見込まれます。支出については、愛大基金への寄付金を50万円とし、各支部交付金の額を約1.2倍見込んだうえで上限を50万円としました。また、IT化費用については非常に多くのご意見をいただき、一時中止やインスタグラムへの転換、担当分けなど様々な点を検証・調査し、次回理事会までに方向性を再検討することとなり、予算としてはひとまず例年通りの額を計上することとなりましたので、支出合計は966万円で見込まれます。

2) 寄付金については、収入は昨年同様の140万円を見込んでいます。支出については、一般会計への繰り入れを90万円とし、返礼品の郵送費が不要となりましたので郵送費を削除して全体では約143万円で組んでいます。

5. その他

同窓会LINEアカウントの管理・運営の見直しについて意見交換を行いました。また、同窓会HP原稿・議事録作成の可否についても意見交換を行いました。

遍路でつなぐ 江戸時代の伊予と阿波

岡本 佑弥 2015年法文学部人文学科卒業
2017年大学院法文学研究科修士

はじめに

筆者が愛媛大学法文学部を卒業して10年が過ぎた。大学院修了とともに、徳島市立徳島城博物館において歴史担当学芸員として採用され、いつの間にか学部および修士課程の6年間を過ごした松山よりも長く、徳島にて過ごしている。この小稿では学生時代から続ける四国遍路研究から得られた知見を御紹介したい。

1 五ヶ所・七ヶ所の遍路

徳島市には四国八十八ヶ所霊場のうち、五ヶ所（十三番札所大日寺～十七番札所井戸寺）が比較的近接して所在しており、その間の巡礼は「五ヶ所参り」として現在知られる。

松山市域にも札所がまとまって所在しており、そのようなところが徳島市・松山市で似ているのかなと着任当時に考えたりもした。学生時代に日本史研究室で調査に参加させていただいた、五十二番札所太山寺には松山市指定文化財の「札挟み」（2枚の板片の間に紐を通して納め札を挟み、首からさげたもの。近世・近代のお遍路さんが用いた巡礼道具）が2点伝わる。

そのうち承応年間（1652～1655）の札挟みの片面には「（梵字：不動明王）奉納七ヶ所辺路同行五人」と記される。ここから遅くとも江戸時代前期にはすでに「七ヶ所」という特定の札所のみでの小規模な巡礼が行われていたことがわかる。なお、この「七ヶ所」は四十六番札所浄瑠璃寺から五十二番札所太山寺までを指し、札挟みは、結願したお遍路さんが太山寺に奉納したものとも考えられている。ちなみに「同行五人」のように、江戸時代の歴史資料には同行者の人数を「同行〇人」と記す事例が散見される。このような表記は、現在の納め札などにみられる「同行二人」の思想とは異なった表記の仕方となる。



林鼓浪筆《娘さんたちの五ヶ所参り》（徳島市立徳島城博物館蔵）
画像中央の女性などが首からさげているのが「札挟み」

徳島の「五ヶ所参り」は、江戸時代後期の古文書によれば、元禄年間（1688～1704）に難航した袋井用水整備の成就を願い、名東郡島田村（現徳島市）の庄屋楠藤（佐藤）吉左衛門が五ヶ所を100日間、日参したことが始まりとされる。その古文書には「五ヶ所遍路」と記される。五ヶ所の中間に位置する十五番札所阿波國分寺には、吉左衛門が69歳の時に建立した享保5年（1720）の供養塔が現存する。この供養塔にも「五ヶ所遍路一百日日参」の文言が刻まれる。

これらのことから現在、「〇ヶ所参り」の名称が一般的な小規模巡礼は、江戸時代には「〇ヶ所遍路」と称されていたのではないかと筆者は考えている。



阿波國分寺の供養塔（2022年11月11日撮影）

2 阿波國分寺の「家根板」

前述の十五番札所阿波國分寺は天平13年（741）、聖武天皇の「国分寺建立の詔」により建立された国分寺を礎とする寺院である。阿波國分寺は現在、四国八十八ヶ所霊場のなかで唯一の曹洞宗寺院である。昭和28年（1953）に境内地が「阿波国分寺跡」として県指定史跡の範囲となった。さらに平成12年（2000）に庭園とともに本堂（瑠璃殿）などを含めた範囲が「阿波国分寺庭園」として国の名勝に指定された。同寺では、平成27（2015）～令和2（2020）年度にかけて国名勝の構成要素となる本堂の保存修理工事が実施された。このうち平成28年度の工事で本堂屋根瓦の下から墨書銘のある枋板（土居葺き板）が大量に発見された。本稿では墨書銘のある枋板を、一部の墨書銘にみられる標記を採って「家根板」と総称する。

「家根板」の発見を受け、徳島市教育委員会では屋根から撤去した全ての枋板の簡易クリーニングを行い、墨書銘の有無の分別、仮分類などを行った。本作業の

結果、総数約11万枚に及ぶ枋板が認められた。そのうち、墨書銘のある枋板、すなわち「家根板」は約3万1000枚あり、全体の約3割を占める。「家根板」の存在は四国八十八ヶ所霊場で初めて報告される事例となる。

「家根板」はすべて杉材であり、1枚あたりの平均的な大きさ（長さ）は約37センチメートル、横（幅）は約6センチメートル、厚さは1～3ミリメートルほどになる（『名勝阿波国分寺庭園保存整備事業－本堂（瑠璃殿）修理工事－報告書』）。



「家根板」（徳島市立徳島城博物館蔵、阿波國分寺寄贈）

「家根板」の墨書銘で多数を占めるのは「為先祖代々菩提」と記されたものである。その一方で全体数に比べると少なくなるが、「予州（伊予）」、「阿州（阿波）」などの旧国・郡・村名および施主の名が記されたものも存在する。このことは阿波国内とともに、他国からも「家根板」を納める人々が存在したことを示す。そのなかには遍路する人々も含まれる。

「家根板」のなかには「奉納四国八拾八ヶ所遍路同行式人」と記されるものも複数ある。これらは納め札として阿波國分寺に奉納されたものであろう。そのほかにも文字のみならず、武士や僧侶と思しき人物画や花鳥図、相合傘など多様な「家根板」が散見される。

なぜこのような「家根板」が阿波國分寺の本堂に大量にあるのか。その理由を示す墨書銘として「本堂家根板一束三銭」、「本堂建立枋キシん（寄進）三せん（銭）文」などが挙げられる。これらの墨書銘から阿波國分寺を参詣するお遍路さんを含めた不特定多数の人々は「家根板」を寄進のために入手し、様々に墨書したとみられる。「家根板」には文化年間（1804～1818）を中心とした年号が墨書される。当時の阿波國分寺は本堂、大師堂建立再建のために勧進を行っており、「家根板」もまた本堂再建〔文化8年（1811）棟上げ〕のための勧進方法のひとつであった。

「家根板」は阿波國分寺の本堂の枋板として使用されるとともに、安価で入手できることから、多くの人々に求められたものとみられる。当時の人々にとってはお賽銭のような感覚に近いのかもしれない。寺院側にとっても一束ずつの収入は少額であるが、貴重な財源となり、本堂再建に寄与するものになったのだろう。

こうした歴史的価値を有する「家根板」は地元マスコミによって新発見の遍路関係資料として報道された。「家根板」は勤務館の展覧会においても、適宜公開し、知る人ぞ知る資料として注目を集めている。

ただ、筆者としては、「家根板」に記された住所などを数量的に分析することで、「家根板」のさらなる歴史的価値を高めることができるのではないかという思いがあった。その思いは前述の学生時代の太山寺での調査経験による。太山寺の堂宇の一部には江戸時代を中心にお遍路さんの落書が多数ある。それを恩師胡光先生の御指導のもと、目録化した。その結果、落書をしたお遍路さんの出身地、期間などが数値として可視化された（『太山寺総合調査報告書（1）』）。同じような分析を「家根板」でも出来ればよいのだが、膨大な量に及ぶ「家根板」の目録作成は、筆者ひとりでは途方に暮れる作業となる。そのことを胡先生に御相談したところ、四国遍路・世界の巡礼研究センターとの「家根板」共同調査を御計画、実施していただくことになった。

3 四国遍路・世界の巡礼研究センターとの共同調査

共同調査は勤務館において令和4年（2022）9月5、6日の初回調査から、令和6年（2024）11月11、12日の第5回調査まで行った。胡先生に御引率いただいた日本史研究室の学生・OBの皆さん方が精力的に調査を行ってくださった。その結果、「為先祖代々菩提」とのみ記されたものを除き、「家根板」全2853点を選別し、目録化した。

調査では伊予出身のお遍路さんが納めた「家根板」も複数見受けられた。住所には「予州松山」、「味酒村」、「和氣郡古密（三津）村」など筆者が学生時代に知った松山の地名を目にした。そのたびに伊予国から遍路のため、阿波國分寺に参詣した江戸時代の人々の姿が目に見えた。

共同調査で得られた目録および分析成果は、四国遍路・世界の巡礼研究センターから報告書が刊行される予定である。ぜひそちらを御参照いただきたい。



共同調査の様子

おわりに

愛媛大学を卒業した後も、学芸員の仕事のなかで母校にお世話になる機会は少なくない。また「家根板」のみならず、徳島の歴史資料を読み解くなかで、愛媛に関する事柄にふれることもある。今後も阿波からみた伊予の視点を大切に、歴史研究を地道に続けていきたいと思う。

〔付記〕

今回、同窓会報に寄稿する機会を与えていただき、学生時代から物心ともに御支援くださる和氣坂ハナミさん、村上和恵さんに心よりお礼申し上げます。

俳句コーナー第4回投句

選句結果発表 & 講評

俳句集団いつき組の家藤正人です。

第4回の兼題は「卒業論文」、通称「卒論」です。学生生活の集大成として成し遂げた人も、這々の体で乗り切った人も、俳句で語って参りましょう。

入選句をご紹介します。

入選五句

秋の夜タイプ打つ手に飯一粒

さーきっと

執筆の道具によってある程度年代がわかるのが面白いですねえ。「タイプ」はタイプライターのこと。手に米粒をつけて卒業論文を書いている姿が絶妙なりアリティを感じさせます。提出締切が迫り焦っているのか、はたまたまぼろな性格ゆえか。手の一粒をひょいっと食べて、秋の夜長にタイプの音を響かせます。

筆止まり思考の海に沈む月

コバルト色の蒲公英

するする動いていた手が、あるいは絞り出すように綴っていた文字が、ふっつりと途切れてなにも進まなくなってしまう……そんな経験、ありますよねえ。動詞「沈む」の位置は前後両方の言葉にかかるよう、企んでのものです。思考の海に沈んでしまったが最後、無情に過ぎていく時間と共に月も沈んでいってしまうのです。

寒室の机に冷えるフロッピー

松山北岩

フロッピーってナニ?という人も多くなっただしょうが、僕個人はバリバリ使ってた世代であり共感を覚えます。「寒室」と「冷える」、季語っぽいものが二つ入ってはいますが、冷たさのダメ押しが「フロッピー」の無機質さを際立たせています。ようやく書き上がった安堵のようでもあり、提出するはずが置き忘れた悲劇の場面のようにも。

図書館の主になりけり夜半の秋

大平 昇

卒論の資料まとめに、あるいは執筆のために連日通う図書館。秋も深まり、夜遅くまで残っていると寒さを感じるようになってきました。そんな頃、作者ははたと、入り浸りすぎてもはや図書館の主のようになってしまっている自分自身の姿に気づくのです。「けり」の難しいニュアンスをうまく使いこなし、なにかに打ち込む人間の習性を捉えています。

詩作もし詩論書き継ぐ冬銀河

いまじん

上五中七のフレーズと「冬銀河」との取り合わせがきらきらと美しい一句です。自分自身が詩を作るからこそ、詩に関する論考も踏み込んだ良いものが書けるのでしょ。『書き継ぐ』の一語が携わる時間の長さを伝えて秀逸です。冬銀河が何千年何万年の光を地球に届けるように、詩や詩論もやがて誰かの元に届けられる日を待っているのです。

優秀三句

小豆買う新札躊躇なく出して

桜 桃

なんとも気風のいいこと!きっとこの「新札」は五千円、一万円と額の大きいものなのでありましようなあ。小豆といえば慶事のお供・お赤飯の材料です。卒論をバッチリ書き上げて、これにて卒業もほぼ確定!よっしゃ~お祝いじゃ!! と盛り上がっているのでしょうか。つやつやに炊き上げられた小豆を思い描くと未来には一片の曇りもないような気がしてきます。

茶とペンとコタツで読んだ『夜と霧』

石井 頼美

『夜と霧』はヴィクトール・フランクルによる書物です。第二次世界大戦時にナチスの強制収容所に収監さ

れた経験をもとに、人生の意味を探求する心理療法を伝える本なのだとか。作者は卒論のテーマにとって重要な言葉や考え方を掘り上げようとしているのでしょうか。お茶を手元に、安穏とコタツで読む自分自身への皮肉、あるいは罪悪感が、少し苦い味わいを残します。

院を出て四半世紀かマスカット

こもれば

大学院を卒業するのは一般的に24歳～27歳といわれます。院を出て四半世紀となると、ざっくりアラフィフ。「四半世紀か」と軽く呟くような中七は人生の折り返し地点を迎えた者だからこそその視点です。読み方次第では負の感情と結びつきそうなフレーズですが、「マスカット」のさらっと明るい着地が呟きを魅力的にしています。鮮烈な日々を送るカッコイイ大人の姿に違いない。ええ、きっと。

特選一句

卒論のテーマは滝や春の空

永尾 真一

フィールドワーク型の「卒論」を思わせる珍しい展開。滝をテーマに書かれる卒論ってどんな内容なんだろう、滝のなにを調べるんだろう、と俳人の好奇心がうずうずしてきます。「滝」も季語ではありますが、作者にとって滝は一年中観察するべき対象であり、季節感は薄いはず。この句における真の主役は「春の空」だと考えました。滝を見上げる視線の先にはいつも空があります。滝は時に灼けつくような快晴を戴き、時に重くのしかかる曇天を戴き、そして今は、柔らか

く霞んだ春の空を戴いているのです。滝の飛沫も水の落ちる音も、春の空の下でどこか柔らかさを増しているかのようで。

第5回投句募集

季 語：秋来る（あききたる）

応募句数：1人5句まで

応募方法：

ハガキ 〒790-8577 松山市文京町3番
愛媛大学法文学部内
愛媛大学法文学部同窓会

E-mail support@ehime-u-houbun-dousokai.com

H P https://ehime-u-houbun-dousokai.com/

締 切：2025年11月28日(金)必着

発 表：第30号同窓会報にて

※HP上では3月末に発表予定

選 者：家藤正人先生

※優秀作品には賞品を差し上げます。奮ってご応募ください！

(選者紹介)

家藤正人(いえふじ・まさと)氏

1986年1月20日生まれ。愛媛県出身。

愛媛大学卒業後、本格的に俳句に携わる。夏井いつきの句会ライブにてアシスタント経験をつむ。自身も講師として、愛媛新聞カルチャー「働く人と学生のための俳句」などのクラスを持つ。老人養護施設や児童館などへの出張俳句教室を行う他、学生を対象とした単独句会ライブも行っている。2016年より南海放送ラジオ「夏井いつきの一句一遊」にてアシスタント、2019年より南海放送ラジオ「家藤正人『一句一遊』虎の巻」ではパーソナリティを務める。2023年4月よりNHK俳句出演。そのほか、松山市公式俳句投稿サイト「俳句ポスト365」初心者欄選者。香川県宇多津町「平成相聞歌」企画参加および選者。国際交流基金インドニューデリー日本文化センター「南アジアオンライン俳句コンテスト」選者。

愛媛大学校友会をご存じですか？

愛媛大学校友会はすべての学部を越えて組織された団体で、同窓生をはじめ、学生及びその保護者、現職及び退職の教職員を会員として、2004年に設立されました。

校友会は、①学生サークルへの援助 ②就職活動の支援 ③留学渡航費の支援 ④学生図書への寄贈 ⑤入学生・卒業生への記念品贈呈 ⑥子規俳句カレンダーの作成など、主に学生支援事業を行っています。

また、同窓生が主体となって組織された首都圏支部・近畿支部・中国支部では、講演会や懇親会を開催するなど、会員相互の交流を盛んに行っています。

同窓生の皆さんは既に校友会会員ですので、会費等の負担はありませんが、会員情報のご登録がないと大学の近況や校友会報の送付、校友会イベントのご案内が出来ません。まだWEB登録がお済みでない方は、お早めに二次元コードからのご登録をお願いいたします。ご登録いただいた方には、もれなく校友会オリジナルグッズをプレゼントいたします。

〈愛媛大学校友会事務局〉 <https://www.koyu.ehime-u.jp/>
〒790-8577 松山市文京町3番 校友会館2F
TEL:089-927-8610 E-mail:office@koyu.ehime-u.jp



1992年卒業 濱田 剛
[法学科]

こんな法文系サークル覚えてますか？

「何か書いてくれん？」と同窓会会報誌編集委員のN氏からメッセージ、ふむふむ。N氏は1学年下の後輩（下記サークル②）。サークルの先輩としては、やはり後輩の頼みにはYESでしょ、協力せねば。いつ書くの、今でしょ！あ、大丈夫ですよ？はい、ありがとうございます。久しぶりに約30数年前の学生時代を思い出してみよう（芋焼酎（DAIYAME最近の好み）を飲みつつ（伏線））



趣味の町中華巡り



愛大に合格し、松山で初めての一人暮らし（高知出身）。右も左もわからんわ〜、そんな時は、サークルだな、ということで3つのサークルに入部。

疾風怒濤のサークル掛け持ち篇

①HSG（法文学部新歓学祭実行委員会の略、活動後述）、②愛法会（愛媛大学法律研究会）読んで字のごとく、法律の勉強サークル。県外の法律弁論大会（当時九州、四国の一部の法学系サークルが参加）にも行ったなあ。事前に課題が出て論者決めて、みんなで準備して大会に臨み、順位もあったと思うけど失念。それよりも何よりも忘れられないのは鹿児島での弁論大会の打ち上げ。鹿児島大学の二人組（鹿大ブラザーズ）から、手荒い芋焼酎の一気（ストーム）を教えてもらって、へろへろだよ、こっちは。そう、倒置法を使ってしまいうくらい、インパクト強すぎだわ、とほほ。その鹿大ブラザーズ、翌年の他県開催でもストームを周りに広めていました、恐ろしい。ここで芋焼酎の伏線回収。愛法会と言えばひまわり会のこと。愛大内ではライバルサークル？法律研究会ひまわり（名称間違っていたらすみません）との「どっちが主流か」争いもあったんですよ。なんかどちらもお互い変に意識していたというね。昔の先輩たち、喧嘩でもしたのか。伝統あるサークル、今も続いている欲しいなあ。③映研（読んでそのままの映画研究会、後半幽霊部員）私の少し上の先輩までは、8ミリ映画を作っていて、バイト代を映画製作に投入する熱量。先輩たち、どれだけ映画好きやねん、と心の中でツッコみつつ、でもかっこよかったです。手作りの大きいレフ板とか道具類も部室にあたり。特に理系学部先輩たちが映画に真摯で熱かった。1回生の時は大道でフィルムマラソンも体験……そろそろ①に戻る。

①HSG、これ令和の今も、愛大にサークルとしてあ

るのだろうか。そもそも大学公認サークルだったのだろうか。法文学部のサークルなので、学部公認だったのかしら。当時、法文学部講義棟の南にコンクリートの部室（通称BOX）があったので（今もあるかな）、学部公認サークルだったと思われる。BOXには、年季の入った麻雀卓。その横には、ワープロ「書院」が静かにありました。そんな時代です。麻雀牌も古く、イーソー（1索、鳥の絵の牌）が1枚足りず、3人打ちで使わないウーマン（伍萬）1枚をイーソー代わりに使う。私ら世代のHSGマージャン部あるあるですね。こういうニッチな内輪ネタもはさみつつ、当時のHSGのことを書く。HSG先輩たちは、一言で言うと見た目もキャラもクセが強いひとが多かったです。特に高校出たばかりの1回生からすると、4回生の先輩とか、結構年齢差を感じるような、みんな大人やん、て。でも優しい先輩ばかりでその節は、お世話になりました、ありがとうございます。あ、愛法会の先輩も優しくったな、ご飯もたくさんおごってくれましたね、ごちそうさまです。HSGはほとんど男性ですが、愛法会は女性の先輩も多かった。（当時の法文学部の学生全体でも男女半々くらいだったかも）

ご存じの同窓生も多いと思いますが、そのHSG、言葉通り、法文学部の学生で構成し、法文学部の新入生歓迎イベント運営や学祭のサポートをするわけです。学祭のほうは、大学全体として、愛媛大学学祭実行委員会（一度学祭にオスマンサンコンさんと呼んでいましたね）があって、それとは別の法文学部の実行委員会です。それでその学祭イベントの一つに、ハリボテを各科でつくって大学から大街道周辺を学祭のPRをしつつ、練り歩くというのがあって、妙に心に残っていますね。そして学祭の最後、夜暗くなってキャンパスのグラウンドに作っておいたキャンプファイアーでハリボテを燃やす。ゴウゴウと燃える音と光。そして燃え終わった後の静謐。祭りの終わりの切なさ感、毎年グッときたなあ。音的にも絵的にも激アツでもっと語りたところですが、文字数の関係でここまでですね。



近況を少し、大学を卒業後、東京で5年働き、27歳で出身地の高知へ帰ってきました。今は医療法人で会社員をしています。また地元では保護司と消防団員もやっています。高知は自然も多く、食べ物もおいしいところなので、同窓生の皆さんも遊びに来てくださいね。

最後になりますが、愛媛大学法文学部同窓会が末永く続くこと心から願っています。



仁淀川の沈下橋

1974年卒業 久保 泰敏

[法学科法学専攻]

愛媛大学ひとすじに

■学生時代

1960年代末の学園紛争の名残で、学生と職員は「敵対関係」にありました。また紛争の影響で教室が使えなかったこともあり、ほとんどの専門授業はレポートを提出することで単位が認定されていました。自然と学外で活動するようになり、喫茶店やレストランでのアルバイトでは大いに社会勉強になりましたし、下宿やサークルを中心に、いろんな友人を得ました。

生活水準は、下宿が主流で、1畳当たり1,000円、風呂無し、洗面・トイレ共同。授業料は年間12,000円。民間業者経営の学生食堂は高くてもずい。今は当たり前前の愛大生協が設立されたのは卒業3年後でした。

出身高校の同級生に手ほどきを受けたオートバイにもめり込み、後に指導員にまでなりました。

バイクとバイトとボウリングに力を入れすぎて就活そのものを忘れていましたが、国家公務員採用試験に滑り込みで出願でき、何とか愛大職員になれました。

■職員になって

法文学部学務係に配属後、学務系10年、庶務系13年のあと弓削商船高専へ出向し3年、復帰後総務系5年、就職支援事務が7年で定年退職しました。

愛大生協には総代として運営に参加し、教職員組織委員会でも機関誌「愛編CO-OP(あいあむこーぷ)」の編集に携わりました。

学生と教職員のライダーに呼びかけて「セーフティクラブまつやま」を設立したのは30歳でした。ホンダ安全運転普及指導員の資格も取り、当時理事を務めていた愛大生協に協力をお願いして「CO-OPセーフティライダースクール」を主催しました。

本学で教職員ソフトバレー愛好会を作り、たくさんの友人ができましたが、出向先の弓削商船でもレクバレーを思う存分楽しむことができました。

■就職支援の仕事は「天職」

農学部における5年を含む7年間従事させていただいた就職支援の仕事は私の性分に合っており、まさに「天職」と言えるもので、特に学生に対する就職相談の時間は充実していました。

定年後には再雇用職員として、法文学部の教室事務の傍ら就職相談の業務も兼任していましたが、5年の期間満了後も非常勤の就職相談員として勤めさせていただいて8年になりました。

■同窓会との関わり

53歳の時、それまで同窓会活動には全く関心が無かったのですが、役員の方から理事になるよう頼まれ、同時に同窓会報の編集委員も引き受けることとなりました。



第8号会報 裏表紙のパズルを出題

■大事件

50歳で発症した変形性股関節症は10年以上放置した結果、耐えられないほどの痛みとなったので、64歳の8月、愛媛大学病院で人工股関節置換術を受けました。

そして、リハビリも順調に進んでいた65歳の4月、今度は突然の脳内出血で倒れました。左視床の出血だったので、右半身麻痺と呂律困難に陥りましたが、いろんな幸運が重なり、「奇跡的に」回復を遂げ、7月には自動車も自転車も運転できるようになり、就職相談員にも復帰することができました。

■就職相談員としてのアドバイス

就活生から相談を受けたときのためのアドバイスを。

①エントリーシートは第三者に見てもらおう。

書き上げた文章は、自分ではおかしいところに気づきにくいもの。

②一番大切なのは「志望動機」。

なぜそこで働きたいのか、どう貢献できるのか？
恋愛に置き換えて考えてみよう。恋人にしたい相手は誰でもいいの？

③面接は会話です。

プレゼンテーションではありません。自分の言葉で話すのが大切。

④面接最後の「何か質問はありますか？」は必ず聞かれます。

「特にありません」では会社に対する関心がないと思われ、入社意欲が疑われる。

⑤「趣味」について

• スポーツはなぜ受けが良いの？

→ 持続力や集中力、チームスポーツなら協調性やチームワークが評価されるから。

• 空欄や「特になし」でも問題はないの？

→ 面白みのない人、好奇心のない人と判断されかねない。

• ウソを書いたり盛ったりしても大丈夫？

→ 多少盛るのはやむを得ないが、詳しく掘り下げた質問もあり得るので、ウソはNG。

• 書けるような趣味がない人はどうしたら良いの？

→ 日常行っている何気ないことを趣味にしてみよう。ウォーキング、ジョギング、サイクリング、料理、お菓子作りなどなど。

■これから

大好きな母校である法文学部とは、今後ともずっと関わっていきたいと思っています。

人生、いつ、何が起こるか、先のことは誰にも分かりません。悔いを残さないよう、感謝の心を持って「今」という一瞬一瞬を大事に生きたいと思います。



2019年5月 ウォーキング帰り

愛媛大学法文学部同窓会へ御寄付いただきました皆様の御芳名一覧

(2025年3月末現在)

愛媛大学法文学部同窓会への寄付の御協力に心より御礼申し上げます。本時点までに御寄付いただきました方々への感謝の意を込めまして、ここに御芳名を掲載させていただきます。(50音順・敬称略)

なお、御芳名の掲載については、同意をいただいた方のみとなっております。

その他多数の皆様からの温かい御支援を頂戴し、深く感謝申し上げます。

【ア行】

青野 純子	赤瀬 晃也	赤星 勝	穂岡 謙治	秋山 久恵	浅山 博志	荒井 泰雅	荒木 敬
荒木 雅弘	安藤あさみ	五百木洋子	井川ちづ子	壹岐 公洋	池川 孝文	池田 隆	石井 博
石川 公寛	石住 勝憲	伊勢元忠伸	伊月 知子	伊藤ゆりか	井上 真一	井上 政清	今村 威
岩城 博年	上田 将輝	植松 良恵	宇治木大輔	氏家 康二	宇都宮眞由美	梅本裕一朗	大岩 義雄
太田 重明	大野 充彦	大平 昇	大藪 崇	岡崎久美子	小笠原 均	岡田 崇司	岡田 禎之
岡本 英男	岡本美恵子	尾崎 文洋	越智 翼	越智 学	小野 清二		

【カ行】

賀上 延啓	笠原 邦一	鹿島 勝	梶本 六夫	楮山 陸美	片岡 正雄	加藤 公堂	加藤 直也
加藤 誠	加藤 昌	加藤 好文	門田 茂	鎌田 孝史	蒲池 正宏	上谷 景子	栢原 壽一
河上 幸市	川上 弘之	川西 勉	川原 学	河村 新吾	川本 健太	川本 清治	菅 勝
菊地みのぶ	岸 武弘	刑部八州男	國枝みつよ	久保チズエ	久保 泰敏	久保川美智子	久保田 温
熊石 康生	蔵田 憲治	倉橋 桃恵	蔵本 修	黒河シゲ子	黒河 安徳	黒田 潤二	黒田 彰三
小池 昭彦	河内 泉	小清水泰信	近藤 安彦				

【サ行】

坂田 せい	坂本 哲巳	坂元 陽介	櫻井 真司	佐々木健二	佐々木珠希	佐谷 嘉美	佐藤 興治
佐野 章雲	重川 剛	篠浦ゆりか	鳶川 武彦	島田 光照	清水 秀一	下向井敏明	白井 瞳
白石 崇	新野 義弘	杉野 洋介	杉本 英智	鈴木 大輔	住田 啓子	清家 信孝	清家 泰雄
瀬野 紘介	園部 忠						

【タ行】

高杉 晃吉	高田 敬士	高山 典久	高山 善行	瀧内美和子	竹内 譲二	武智 敏	竹本 道代
橘 齊	立上 良典	田中 節子	田中 忠	田中 嘉浩	谷岡 利弘	谷本 須美	玉井 周平
玉垣 俊彦	丹 昭夫	月原 信夫	津田 朋美	堤 紘司	坪野賢一郎	露口 正夫	鶴村 幸弘
出来谷 勇	土井脇 稔	徳永 悌一	富永 育秀	豊澤 正則	鳥生 勉歳		

【ナ行】

中居 義輝	長尾絵梨香	中島 邦雄	中西 龍太	永野 正武	中林 慎治	中村裕二郎	成清 寿一
西岡 秀記	西川 恵三	西田 和真	西村 佳純	西本 昌永	西山 明香	仁田 一也	二宮 秋晴
縫部 高志	野寄 明子	野田 勝美	野田 敏幸	乗松 眞二			

【ハ行】

長谷川逸雄	畠中 節男	浜崎 育子	濱松 一良	林田 貴光	張本 雅宣	兵頭 厚子	平野 嘉成
弘内日出雄	弘田 静憲	深坂 穰	藤田 育子	藤本 康城	藤原 裕治	古市 順一	平良 稔
保科 昇	細川 陽平	堀田 深山	本田 公子				

【マ行】

正岡 政美	増田屋明子	松浦 道明	松岡 久朗	松下 俊一	松島 稔	松田 三郎	松田 敏幸
松田 良光	松成 裕子	松本 長彦	松本 雄一	三家本国雄	水本 誠時	水本 美咲	宮内 真理
宮岡 実穎	宮川 晶子	宮首 賢治	三宅 一夫	宮野 陽子	宮本美登里	三好 和興	村上 和恵
毛利 修三	森 健一	森 浩平	森 幸子	森岡 芳洋	森貞 孝治	盛田 隆	

【ヤ行】

葉師寺正義	安永 博邦	八東 誠二	八塚 洋	矢野 一彦	矢野 和弘	山内 千代	山口 里奈
山田 耕造	山田 稔子	山根 明	山根 勝美	山根 淳一	山根 主税	山根 直生	山根林太郎
山本 一義	山本 貞康	ヤマモトサヤカ	山本 求	横川 修	吉本 政弘		

【ワ行】

若江美千子	脇 敏夫	和氣坂ハナミ	渡部 浩三	渡邊 博重
-------	------	--------	-------	-------

[2024年度寄付総額] 1,358,000円 寄付者総数313人(内、匿名希望62人、掲載可251人)

[2023年度寄付総額] 1,453,000円 寄付者総数304人(内、匿名希望58人、掲載可246人)

注記) 複数人の方から複数回御寄付いただきましたので、集計人数が掲載人数を上回っております。

故・川口 康昭様 故・松田 清様 お二方のご遺族の方からご寄付いただきました。
お礼申し上げますとともに、謹んでお悔やみ申し上げます。

寄付金の払込時にお寄せいただいた「応援メッセージ」をご紹介します。

文末に記載しているのは、英文字のイニシャルと卒業年(西暦)の下2桁です。なお、63人の方からメッセージをいただきましたが、誌面の都合上、一部のみのご紹介となることをお許しください。

- *「スモール・イズ・ビューティフル」の生き方を実践してください。HO74
- *お世話になりました。ありがとうございました。がんばってください。MK02
- *サークル活動、ボランティア、旅行、勉強。何事も、打ち込めば、一生の宝物になる。MH72
- *愛大を卒業して早や47年。大阪から松山で学び過ごした日々を思い出す事多いです。松山や愛大はいい都市でいい大学でした。YH77
- *未来ある四国のために頑張ってください。MM05
- *これからも楽しく読みごたえのある会報を期待しています。応援しています!!! MM83
- *大学で培った経験で社会の荒波を乗り越えよう。TN90
- *学生時の仲間を大切に! 半世紀以上経ても「持田寮・御幸寮生大会」を開催しています。(令和6年6月大阪で第7回、50人出席) JT70
- *今年初めて大学の部活のOB会を開催しました。人生への影響が大きかったことを再確認。(4年間が) KT78
- *「同窓会報」毎回楽しみにしています。関係者の皆様に感謝です。KN69
- *愛媛を元気にする人材が育ちますように!! MK87
- *同窓会の益々のご発展をお祈り申し上げます。MT87
- *今年は、卒業後51年ぶりに法学科前半クラスの同窓会を松山で開催しました。法文学部同窓会の益々の発展を祈っています。HO73
- *編集されている皆様、いつもありがとうございます。そして、学生諸君、今を、さらには社会にでも、まず我武者羅に吸収し、放出し、その後に備えてください。TI85
- *皆さんの活躍を拝見し、刺激を受けています! NK05
- *社会人として31年間勤めながら、子育てもするなかで大学、学部で学んだこと・経験が年々意味深く感じております。心より応援しております。IH93
- *勉学に励むとともに心豊かな(他)人の気持ちがわかる人になってください。TA82

- *がんばってください! 応援しています。MY95
- *いつも楽しみにしています。今後とも頑張ってください。YS89
- *同窓会の行事に参加するのを楽しみにしております。TI72
- *何事にも好奇心を持って欲しい。KK65
- *法律を学んだことは私にとって人間らしく生きていく上で大変良かったと思います。歴史の失敗を踏まえて人権があるのですから。KS61
- *大学院時代にお世話になった副指導教官の先生に「これからも学び続けなさい」と、社会人になっても背中を押して頂き、今があります。“学び”の基礎を培ってくれた愛大に感謝です。MM03
- *母校のますますのご発展をお祈り申し上げます。RK79
- *皆さんの大学生活が充実したものになることを心から願っています。頑張ってください! HN91
- *お世話になっております。同窓会の発展をお祈りします。GM57
- *EHIME Univ. 関係者皆様のご活躍を心から祈念いたします。我孫娘の名前は愛媛(EHIME)でオーストラリア在住です。EHIME Fight!! MO83
- *同窓会報の発行ご苦労様です。楽しく読ませて頂いています。今後とも宜しく願います。TS62
- *愛媛大学法文学部同窓会の絆がますます深まることを願います。YN99
- *食料品が値上がりして、学生にとっては厳しい時代です。でも今しかできないことにチャレンジしてくださいね。YY93
- *明るく元気に頑張ってください。KH64
- *同窓会報いつも楽しみにしています。ありがとうございます。SA69
- *今できることを全力で!! HI98
- *法文学部の発展と同窓会の盛会をお祈りいたします。FO91
- *卒業から30年以上過ぎても松山に行くたび大学周辺を散策しています。変わらない校舎、当時の飲食店が残っているとうれしく思います。在学生のみなさん、今しかできない学び、遊びを楽しんでください。CM89
- *会誌をいつも楽しみにしています。時代は変われど学生の姿は元氣と希望をもたらしてくれませぬ。TI95

「会報及び同窓会に対するご意見・ご感想」でいただいたご意見について回答いたします。

Q&A

Q 愛大医学部への献体について、やり方などを紹介していただけましたら幸いです。

A まずは、愛媛大学白菊会に入会(献体登録)することが必要です。白菊会事務局(089-960-5177)へ連絡して、「入会申込書」を入手してから必要事項を記入・捺印して送付します。随時受け付けていますが、毎年3月末で締め切り、5月上旬に結果が通知されるそうです。(ただし、入会できるのは現在、愛媛県内在住者が対象です。)なお、詳細については「愛媛大学白菊会」のホームページをご覧ください。<https://www.m.ehime-u.ac.jp/siragiku/guide/>

Q 同期会等で集まる時の補助がほしい。

A 同窓会としては補助金は支出していませんが、愛媛大学ホームカミングデイの式典に参加する卒業生が実施する同窓会イベントの必要経費補助制度があります。ただし、ホームカミングデイ当日に式典に先立ち実施するイベントで、参加者1人あたり1,000円を上限とし、受付は先着順とされています。

なお、詳細については愛媛大学ホームカミングデイのホームページをご覧ください。<https://www.koyu.ehime-u.jp/koyu/info/>

Q 会報の表紙にあるライトアップメイブルード(きれいですね)の期間などLINEに載せていただければ嬉しいです。お世話して下さっていた担当課にお聞きしたところ、ライトアップは2023年度までは実施していましたが、電動車椅子を利用されている学生さんへの配慮もあって、2024年度からは休止しているとのことでした。

Q 同窓会への寄付の振込を郵便局の振込用紙以外で寄付したいです。電子マネーとか。

A 寄付金の受け入れ方法の見直しにつきましては、拡大三役会議で種々検討を重ね、2024年度第1回理事会において、同窓会ホームページから寄付が出来る仕組みの導入を提案しましたが、コスト面を考慮して否決となりました。お手数をおかけしますが、従来通りの方法でご寄付いただきますようお願いいたします。

Q 寄付金活用の「積極的な内容」を考えて欲しいです。寄付総額の2/3が「えみか夢基金」への寄付など法文学部生の海外派遣に活用するのはおかしいと考えます。コロナ禍の教訓の一つは、共に学び研究することの大切さです。中途退学を余儀なくされた学生が法文学部にどれだけいたかは分かりませんが、アルバイトや借金となる奨学金で何とか学業を続けている学生にこそ「支援事業」が必要なのではないでしょうか。

A 愛媛大学では、「国際的視野を有する人材の育成」を目標に掲げ、学生の海外派遣・海外留学に力を入れていることから、支援のために寄付願いたいとの要請を受け、本会理事会の議を経て寄付してきました。

また、経済的に困窮している学生に対しては、様々な支援制度が設けられていますが、2022年には愛媛大学独自で「コロナ対応緊急支援奨学基金」が立ち上げられ、それに対して本会からも50万円の追加寄付をいたしました。同窓会から学生個人への現金支給となると、その制度設計及び執行は複雑で、しかも原資に限りがあるため、現実的ではないと考えられます。

本会規約第2条に定める「会員相互の親睦を図るとともに、愛媛大学法文学部と密接な連携を保ってその発展に資すること」という目的を達成するために、今後とも、理事会の決定に基づき適正に予算執行していきたいと思っております。

Q バックナンバーのすべてを電子化すべきである。

A 確かにご指摘のとおり、同窓会のホームページで古い会報を見たくても2007年以前の号は電子化されていないので閲覧できませんよね。きっと同じ思いの卒業生もいらっしゃるかと思います。

調べたところ、2008年以降の号からは現在の印刷会社をお願いしてきたのでデータがあり、電子化されていますが、2007年以前の号は別の印刷会社だったので、保管している冊子を撮影してPDF化するのと同時に、個人情報チェックして該当箇所を削除するといった作業が必要で、新たな費用が発生することが分かりました。今後、理事会等で検討していきたいと思っております。



橋本 吉博(ペンネーム求菩提三六)
1964年人文学科乙(経済学専攻)卒

まだまだ旅の途中

83歳と7カ月。まだまだ旅の途中である。

1941年、太平洋戦争が勃発する直前に福岡県の農家の長男としてこの世に生を受けた。それから今日まで泣き叫び、喜び、時に怒り、そして笑いながら歩き続けてきた。ざっと73万2千時間を不眠不休で歩き通したとしたら、自分の歩幅で旅程210万^{km}になる。

日本から太平洋を渡り、アメリカ大陸を横断して大西洋を越え、ヨーロッパ、アジア大陸をまわって日本に帰り着く距離が4万^{km}だから、地球をざっと5周と4分の1周回したことになる。あくまで計算上の話だが、83年7カ月という歳月はそれほどの時間と距離かと改めて感慨を覚える。

唐の詩人・李白の有名な詩に「春夜宴桃李園序」というがある。

夫天地者万物之逆旅
光陰者百代之過客
而浮生若夢為歡幾何

[現代語訳]

そもそも天地は万物を迎え入れる宿(のようなもの)であり、時の流れは永遠の旅人(のようなもの)です。そしてはかない人生は夢のよう(に短いもの)であり、喜び楽しむ時はどれほどあるのでしょうか。



多くの文人墨客が、この詩に時の流れの儚さを共感し、引用している。「日本永代蔵」を書いた井原西鶴や「奥の細道」の松尾芭蕉しかり。かたときも留まることない時の流れの中に生きる人を旅人とする表現に、そこはかかない詩情を感じたのだろう。

旅という言葉とセットなのが客である。「きゃく」とも「かく」とも読ませるが、語源は「まろうど」(稀に来る人)。平安時代から祭祀に招かれる人を意味し、丁重にもてなしする人を主人、接待を受ける人を「まろうど」(客)と呼んだ。

かつて街道筋でブイブイ言わせていたヤクザの親分のところに草鞋を脱いだ渡世人を、この世界では客人として丁重にもてなし、客人は「一宿一飯」の恩義を

感じて義理を果たす。股旅物定番の筋書きで、今でも裏の世界では兄弟、客分といった名称が残っていて一日置かれる存在らしい。

ある日の早朝、NHKラジオ深夜便から91歳の女性の「明日へのことば」が流れてきた。脳性マヒの息子と56年、その兄、姉も育てながら駅のエレベーター設置やグループホーム建設に力を注いだ頃の日記をもとに書いた作文「息子とともに(半世紀を生きて)」でNHK障害福祉賞・矢野賞を受賞した人だった。

息子の残された人生を心にかけてながらも、「よその国ではどんな表現をするのか興味があって」と、今もなお外国語の勉強を続けていると言い、卒寿を越えての旅はまだまだ続く。

「どんな死に方がいいんでしょうねえ」と、快活に語っていた声が今も耳に残っている。

希望という名の あなたをたずねて
遠い国へと また汽車に乗る……

岸洋子が歌った「希望」が思い出される。人はどんな状況の中でも希望を探し求めながら生きていくもの。逆に言えば、希望がなければ人は生きていけないということなのだろう。

3度の心筋梗塞、胃がん、慢性骨髄性白血病、間質性肺炎と、大病を重ね、生きているのが奇跡と言われた。幾度となく死線を彷徨いながら、妻や子どもたちか、先に逝った両親や縁につながる人たちに「行かないで」「まだ来るな」と引き戻されたのか、三途の川を渡らずに済んだ。

残り時間を意識しながらの頼りない旅ではあるが、まだいくつも〈やりのこし感〉を抱えている。「くたばってたまるか」という気持ちもある。だから、この旅をもう少し続けたい。夢、希望と好奇心をポケットに入れて明日、また汽車に乗る。

コトコトと走る各駅停車の客席から、ゆっくりと流れていく風景を楽しめる旅がいい。

関西支部にきたつ会 奈良《まほろば》の歴史再発見ウォーキング

関西支部「にきたつ会」では令和7年5月25日(日)恒例のウォーキングイベントを開催しました。今回のテーマは、奈良の世界遺産を巡る『奈良《まほろば》の歴史再発見ウォーキング』で、総勢14人が参加しました。



当日はあいにくの小雨となりましたが、10時に近鉄奈良駅前「行基広場」に集合した後、午前中は、氷室神社、東大寺(南大門・大仏殿・鐘楼・二月堂)を巡りました。昼食は、若草山のふもと『レストラン春日野』で三輪そうめん、胡麻豆腐など、奈良名産を堪能しながら、懇談。午後は春日大社、春日灯籠、一の鳥居、猿沢池を散策のあと、興福寺で解散しました。

雨を浴びて爽やかさを増した新緑のなか、天平文化に触れながら奈良の世界遺産を堪能した『奈良の魅力再発見』のウォーキングとなりました。

【令和8年度 ウォーキングイベントのご案内】

令和8年5月24日(日) 歌劇だけじゃない、宝塚の魅力発見ウォーキング
関西地区以外の方、ご家族、ご友人との参加もOKです。参加ご希望の方は、にきたつ会/島田宛eメールでご連絡ください(アドレスは「支部だより」に記載)。

にきたつ会/島田 光照



奈良まほろばソムリエ検定1級を取得し、ボランティアガイドで活躍されている永尾真一さん(にきたつ会会員)に今年もご案内いただきました

輝かしき青春の日々

富岡 法子

2004年法文学研究科卒

私には2度の青春時代があった。

1度目の青春は言うまでもなく20歳前後のことである。私は終戦の翌年、昭和21(1946)年1月に生まれ、高校卒業後は大学進学を希望したが経済的理由で叶わなかった。人生初の挫折と共にある青春であった。

私にとっての本当に輝かしき青春は、私が50歳を越え、愛媛大学法文学部の夜間主コースに入学した時から始まる。長く社会で働く中で様々な疑問が湧いていた。自分の人生に対する漠然とした概念を、学問を通してきちんと再構築したいという思いが進学の原因であった。

子育てが一段落したとはいえ、正規の仕事をし、母の介護もしながらという中で学生生活であった。しかし、「俺の後輩になるんか……」と言って嬉しそうに送り出してくれた、今は亡き夫の有難さと共にある学生生活でもあった。

夜間主コースの授業は午後6時から。しかし仕事も6時まで。周到に食事の計画を立て、自転車で20分余りの通学途中で我が家に立ち寄り、家族の夕食の準備をし、教室に入るのは6時50分ごろであった。今日は何を習っているのだろうと理解するのに5～10分。その数十分後には6限の授業は終わっていた。

法文学部の先生方は本当に温かく、素晴らしく「無知の知」を体現しておられ、故に謙虚であられた。ある質問をしたら「僕の説明が下手だから……」と恐縮された時は、かえってこちらが恐縮した。ほとんどの先生が私よりお若かった。

授業内容も大変興味深く、学ぶ喜びに満ちた日々であった。私は家でもずっとパソコンに向かい、使い過ぎでパソコンが壊れた。興味が尽きなかったのである。ある時期はパソコンの前で居眠りして朝を迎え、布団で寝る日は週に幾日もなかった。

一方、何でこれが女性名詞なの？ 読まない文字を何で書くの？ などとフランス語は怒りとともに学んだ。また30余年ぶりの英語にも苦労した。ハイデガー哲学は難解で力尽き、お断りの手紙と共に中途半端なままのレポートを提出したが「いつか、できたら見せてくださいね」と言って山本先生は「優」を下された。夏休み24枚にもなるレポートを再提出したが、結局よく解らずじまいであった。

夜間主コースの仲間は、青森県から沖縄県まで、年齢も職業も多様な人たちが集まっていた。垣根を越えて腹藏無く語り合い、心地いい時間を過ごした。社会学を専攻し桐田克利先生と出会った。先生の研究室を訪ねると、常にパソコンに向かわれ、論文を作成しておられ

た。コーヒーのカスの入った袋が流しに山積で、部屋は煙草の煙でレトロな雰囲気か漂っていた。「どうぞ」と言われても座るに困るようなソファー、でも、山積みの本や書類の中、必要な本はすぐに見つけ出して貸してくださった。

まだ私が2回生になったばかりのゼミの時、「もうちょっといい社会であつたら…」とボソッと言ったら、「いい社会とは何ですか？」とすぐに鋭い質問が返ってきた。普段は無口な先生だったが、学問に関しては鋭く雄弁であられた。一つの質問に20分余りの説明が返って来ることも度々あった。

卒論は、若者のアイデンティティー問題を尾崎豊の歌詞を使って検証した「僕が僕であるということ」で、彼の歌詞を集約した詩集や音楽やビデオを見放題で、こんなに楽しみながらで良いの？ と思いながら卒論は書き終えた。

その年の5月である。研究室で先生にお会いして家に帰った直後、同級生から「先生が授業中に倒れられ、市民病院に向かっている」との電話があった。7限の授業が終ろうとする夜9時前であった。幸い学生の中には看護師たちがおり、適切な対応はしたようであった。昏睡状態の先生のお顔は穏やかだった。先生方が続々と駆け付け、宇和島にお住いのお母様も駆け付けられ、当時香川県に住んでおられた奥様と4歳のお子様も駆けつけられたのは深夜であった。最期の授業直前、奥様にお電話があったと伺った。『苦悩の社会学』を著された先生は、お幸せだったのだとほっとした。

翌朝早く、先生は目を覚まされることなく、52歳でお亡くなりになった。

全員が深い悲しみの中、先生方と学生で追悼集を作成し、旧法文学部棟3階の先生の研究室の下に、「桐田教官のメモリアルツリーにつき、切るべからず」との札を下げて、奥様とご一緒にヤマモモの木を植樹した。今は総合教育棟1となっている南側でたくましく育ち、今も5月には赤い実が実っている。



桐田教官のメモリアルツリーとともに

院生時代は、当時いじめの研究をしておられた竹川郁夫先生と伊地知紀子先生に本当に真摯にご指導頂いた。竹川先生から「一緒に研究しませんか」と言って頂いたが、家庭の事情と自分に自信もなかったので辞退した。しかし、学んだ社会学を少しでも多くの方に……と思い、私はカルチャースクールで10年程「人間学サロン」として講座をもった。つい4、5年前の先生のご退職時まで読書会や、ゼミにもご一緒させて頂き、長期に渡り本当に貴重な有り難い時間を過ごさせて頂いた。

おかげさまで、今、80歳を前にしても尚、私の輝かしい青春は続いているようにも思えるのである。



コンパにて(中列右から3番目)

同窓会 提供講座 『社会と人間』

2024年10月2日(水)から2025年2月13日(木)の補講日まで基本的に水曜日の5限に開講された第18回目の提供講座は、予定の全15回を完遂いたしました。

ご担当教員の秋谷裕幸先生、高橋弘臣先生、羽月章先生、山本與志隆先生並びにTAの学生の皆様のお力添えを賜り、円滑に開講できました。この場をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。皆様には黒河会長より感謝状を贈呈いたしました。

2025年2月12日には講師の方々にご出席を賜り、講師懇親会が開催されました。今回の講義に関する反省や次回への課題等、食卓を囲み穏やかな雰囲気ながらも熱の籠った意見が交わされました。



回	テーマ	担当日	担当講師名	現職
1	ガイダンス	10/2	松本 長彦	愛媛大学法文学部同窓会 会長/ 愛媛大学名誉教授
2	広告・印刷業界で働く	10/9	米田 聖	セキ株式会社松山営業部 営業1課 課長
3	松山市役所で働く	10/16	大隅 哲平	松山市役所健康保険課 主査
4	脚本家という仕事	10/23	岸本 卓	脚本家
5	放送業界で働く	10/30	月岡 瞳	南海放送株式会社 新時代FM推進局
6	旅行業界で働く	11/6	田川茉莉子	株式会社阪急交通社松山支店 営業係・係員
7	警察官として働く	11/13	江藤 宏隆	愛媛県警察本部生活安全部生活 環境課 企画・指導課長補佐
8	製造業で働く 女性の現在	11/20	武市志奈子	三浦工業株式会社 船用業務管理 部 船用設計管理課 係長
			岡本 瞳	三浦工業株式会社 船用事業推 進部 船用EM推進課

回	テーマ	担当日	担当講師名	現職
9	学芸員として働く	12/4	甲斐未希子	愛媛県歴史文化博物館 主任学芸員
10	教育の現場で働く	12/11	伊藤 架音	新田高等学校国語科教諭
11	金融業界で働く	12/18	金子 剛	愛媛銀行公務ふるさと振興部・ 副調査役
			森藤加奈子	愛媛銀行ソリューション営業部・ 主任
12	行政書士として働く	1/8	河村 佳和	行政書士河村佳和事務所・代表
13	小売業界で働く	1/22	川野 亮子	株式会社フジ フジグラン松山 販促主任
14	大学職員として働く	2/13	伊藤 剛大	愛媛大学研究・産学連携支援部 研究・産学連携支援課 研究企 画・戦略チームSL(サブリーダー)
15	ま と め	2/5	重松 直江	愛媛大学法文学部同窓会 副会長/ 重松直江税理士事務所

提供講座の受講生に対するアンケート結果

Q1. 講義を受講してみて、全体的に満足いくものでしたか。

とても満足	68%	やや満足	27%
やや不満足	5%	とても不満足	0%

Q2. 講師の方々のお話は、あなたのキャリアを考える上で参考になりましたか。

とても参考になった	68%	やや参考になった	29%
余り参考にならなかった	3%	全く参考にならなかった	0%

Q3. 感想をお聞かせください。

- 様々な業界に出会わせてくれたこの授業にとっても感謝しています。
- 自分の将来の選択肢を広げられるような魅力的な授業だと思います。
- 来てくださった方の学生時代の話や勉強方法などを聞くことが出来て良かったです。
- 色々な人の生き方を目の当たりにして、改めて挑戦することの大切さを学びました。

2025年度 提供講座開講のお知らせ

回	テーマ	担当日	担当講師名	現職
1	ガイダンス	10/1	黒河 安徳	愛媛大学法文学部同窓会 会長 愛媛県農業協同組合中央会 県IJA推 進部 入づくり支援センター専任講師
2	放送業界で働く	10/8	月岡 瞳	南海放送株式会社 新時代FM推 進局 メディアセンター
3	講演家として働く	10/15	なかしま ちはる	フリーランスの講演家
4	広告・印刷業界で働く	10/22	米田 聖	セキ株式会社松山営業部営業1課 課長
5	小売業界で働く	10/29	重松あゆみ	株式会社フジ加工食品MD推進部 四国加工食品SVグループ スーパーバイザー
6	金融業界で働く	11/5	越智愛耶美	株式会社伊予銀行 人事部 課長代理
7	東京で働く	11/12	大村万夢里	株式会社パソナ・パブリック本部 パブリックDotank事業部・ 副事業部長
8	警察官として働く	11/19	江藤 宏隆	愛媛県警察本部 生活安全部 生活環境課 許可事務等指導室 課長補佐

回	テーマ	担当日	担当講師名	現職
9	松山市役所で働く	12/3	大隅 哲平	松山市選挙管理委員会 主査
10	製造業で働く 女性の現在	12/10	武市志奈子	三浦工業株式会社 船用業務管理部 船用設計管理課 係長
			岡本 瞳	三浦工業株式会社 船用事業推進部 船用EM推進課
11	教育の現場で働く	12/17	石川 明弥	高等学校教員
12	IT業界で働く	12/24	鶴本 時彦	サイボウズ株式会社 カスタマー 本部 カスタマーリレーション部 AI&Devチーム
13	食品業界で働く	1/14	永吉 翼	日本食研ホールディングス株式 会社 リテール事業部 精肉グループ・ 主任
14	国家公務員として働く	1/21	小谷 真輝	厚生労働省愛媛労働局総務部総 務課 人事係
15	ま と め	1/28	吉田 一恵	愛媛大学法文学部同窓会 副会長 学校法人河原学園 人間環境大学 副学長(松山エリア担当)

※担当日は変わる可能性があります。

講師の方に感想をお聞きしました！

第8回 製造業で働く女性の現在

三浦工業株式会社 船用事業推進部 船用EM推進課

岡本 瞳



この度、2024年度提供講座の第8回「製造業で働く女性の現在」を担当させていただきました。卒業してわずか半年後に講師として母校に戻ることにになるとは思ってもおらず、人生の予測できなさを改めて実感しています。

講義中に学生の皆さんからいただいた質問や感想からは、私も多くの気づきと学びを得られました。特に、法文学部という「文系」のイメージが強い学部から、「理系」のイメージが強い工業系の会社へ就職することに抵抗を感じている学生が多いことが印象的でした。私自身も機械についての専門知識がないまま入社したため、不安を抱えている学生の皆さんの気持ちは、まさにかつての自分と重なります。

私は入社後、現場を見て学んだり、上司や他部署の方々に質問を重ねたりしながら、少しずつ知識を身につけました。今でも分からないことは多々ありますが、その都度調べたり、周囲に相談したりしながら、日々成長を試みています。

大学での学びがそのまま仕事に直結したわけではありませんが、レポートや卒論を通じて培った「問題を設定し、それに対する解決策を考え、最終的にまとめる能力」は、業務知識の習得や問題解決に役立っています。また、授業で磨いたプレゼンテーションスキルも、業務上で非常に役立っています。大学生活での経験はどれも無駄ではなかったと、今になって実感しています。

私の学生時代はコロナ禍の真っ只中で、思うように外出や活動ができない時期も多くありました。それでも限られた環境の中で得た経験は、確かに今の自分を支える大切な土台となっています。

在学生の皆さんだけでなく、卒業生の皆さんも、それぞれの場所で新たな挑戦を続けていることと思います。私自身も社会人としてまだまだ学びの途中ですが、これからも愛媛大学での学びとつながりを糧に、前向きに歩みを進めていきたいと思っています。

最後に、このような貴重な機会をいただきました同窓会事務局の皆様、先生方、講師の皆様、そして受講生の皆さんに、深く感謝申し上げます。

第13回 小売業界で働く

株式会社フジ フジグラン松山 販促主任

川野 亮子



今回はじめて「小売業界で働く」というテーマで講義をさせていただきました。当日は緊張しながらも学生の皆さん1人ひとりの真剣な表情をみながら楽しく話すことができ、あっという間のひと時でした。

自分自身のキャリアを振り返る機会

になったこと、母校との新たなつながりが持てたこと、どれも大変貴重な経験でした。ご縁をいただきました関係者の皆さまには心より御礼を申し上げます。

さて、私はホームセンター業界で総合職としての経験を積み、もっと地元で根差して働きたいという想いからフジに入社し7年目となります。入社以来本部でSNS運用や自社アプリ開発などデジタルマーケティングの仕事に従事しておりましたが、昨年よりフジグラン松山に配属。集客イベントの企画や商品・人の魅力を伝える情報発信に奮闘しております。学生の皆さんも、一度は行ったことのある身近なお店の仕事なので、興味津津で聞いてくださいました。

現在の仕事は自分のアイデア次第でどんどん新しいことに挑戦できる環境ですが、迷ったときは自分やお客さまが“ワクワク”するかを指針に行動しています。単に売場でモノを売るだけでなく「地域と人をつなげる」「新しいワクワクを創造する」フジの使命、仕事のやりがいを、講義を通して少しでも実感していただけたなら嬉しく思います。

私自身大学時代に就職活動をしていた頃は、現在のように小売業やマーケティングの分野で働くことになるとは思ってもいませんでした。総合職としておかれた環境で着実に経験を積み、企画することなど自分の強みを磨いてきた結果、今の仕事ができていると感じています。

異動・転職など仕事環境の変化、結婚・子育てのライフステージの変化など長い人生色々なハードルがあり、それを乗り越えての“キャリア＝自分の人生”があると改めて感じます。学生の皆さんも、何かに熱中したり挑戦した経験は、その先に成長があり、必ず自分の糧となります。恐れず前向きに行動してほしいと思います。ぜひ自分が“ワクワク”するかどうかを行動の指針にしてみてください。

退職された教員の方々

- ① 愛媛大学に来られた年
- ② 所属の講座
- ③ 研究・専門について



佐藤智秋先生

- ① 1997(平成9)年4月
- ② 法文学部社会科学講座
- ③ 経済統計

出生地 秋田県
最終学歴 中央大学大学院商学研究科
博士課程後期博士課程修了
学位・称号 博士(経済学)・愛媛大学名誉教授
所属学会 経済統計学会、日本統計学会

1997年4月に法文学部に赴任してから、28年間勤務してきました。前年の1996年に法学科と経済学科が統合されて新学科の総合政策学科ができ、この改組に絡んだ採用でした。担当科目は、新学科の学生を対象にした統計科目で、経済統計を専門とする私にはピッタリの科目でした。

赴任当初は、旧経済学科の学生がまだ在籍していましたが、改組が繰り返される中、経済系科目の削減が進み、退職が近づいた頃には、法文学部で経済学を学べることを知らないで入学してくる学生も珍しくなくなっていました。同窓会会員には、在学中に経済学を学ばれた方が多いと聞いています。私同様、残念に思われる方も少なくないのではないのでしょうか。

研究は、赴任前からの旧ソ連・ロシアの経済統計研究と赴任後に着手した国内の地域経済統計研究からなります。

1990年代に入り日本経済が停滞してくると、地方国立大学には地域経済活性化への貢献が強く求められるようになり、愛媛大学でも地域貢献が重視されるようになりました。こうした中、私も法文学部の経済系教員と共に、愛媛県経済を対象とした景況調査の企画・分析・報告に関わるようになりました。結局2つの景況調査をつくりましたが、これらの統計調査は若手教員に引き継がれ、どちらも、調査結果が新聞等で報道されるなど、愛媛県内の景気動向を捉える統計として定着し利用されるようになっていきます。いくらかは地域貢献ができたようです。

在職期間の終盤には、愛媛大学評議員や図書館長を兼務するようになりました。それまでの大学教員の経験では対応できない業務の連続で苦労しましたが、愛媛大学の役割を再認識する貴重な機会にもなりました。

退職後も、愛媛大学や法文学部の発展に関心を持ち、みな様のご活躍を応援していきたいと思っております。



野田裕久先生

- ① 1988(昭和63)年4月
- ② 法文学部社会科学講座
- ③ 自由主義ならびに保守主義の哲學的基礎と歴史的展開の究明

出生地 大阪市
最終学歴 京都大学大学院法学研究科政治学専攻
修士課程
学位・称号 法学修士・愛媛大学名誉教授
所属学会 日本政治学会

これまでの人生で、最も恥ずかしい間合の一つ、最も深刻な問いの一つ、最も嬉しい褒め言葉の一つ。その何れにも在職中に出くわすことになった。順次に。

就職希望の4回生は年度末頃に求職票を作成提出せねばならない義務が嘗てあった。指導教授の所見も必要。2月14日のこと、ヴァレンタインデーである。Perfumeの「チョコレイト・ディスコ」よろしく「気にしないふり男の子」モードである。研究室に女子ゼミ生が入室して鞆から何かを取り出そうとの仕草。「ありがとう」といって近づいたら怪訝な面持ちとともに取り出されたのは求職票であった。「あ」と取り繕って受け取り。「悲しみはそれを物語ることによって和らぐ」との名言よろしく「恥ずかしさはそれを物語ることによって和らぐ」と気取って記すものの、いやいや恥の記憶が却って甦るばかりである。

男子ゼミ生からの「先生は何で生きていますか」との問い。その時の即答が「生きるように出来ているからだ」。事後の敷衍としては「生きるものは死ぬが『死ぬために生まれてきたのではない。生きる(始める)ために生まれてきたのだ』(ハンナ・アレント)」とか、「生きる理由を説明する必要はない。天寿を全うせずに自ら死ぬという時にこそ殊更に理由が求められる。『葉隠』が生死二択の際には死を選べとの主意で、死を選べば『狂ひ死に』と評されても『卑怯』と誇られることはないからと説くように」等々か。

教員学生間の不具合の案件があり。相棒の研究室で女子と面談。悄げて会話もままならぬさま。役割分担上、相棒が中座して戻ってくるなり、二人の顔を見渡して驚いたように「何かあったんですか、ニコニコしてる」と。当方がしきりに話しかけてそれに答えてくれてそうだった次第。暗から明への転換に一役買っていかたとの嬉しさ。

同窓生の諸子、喜びや慰めの往来の日々。それぞれの御多幸を念じる次第である。



上山友一先生

- ① 1989(平成元)年10月
- ② 法文学部社会学講座
- ③ 法哲学

出生地 鳥取県
最終学歴 大阪大学大学院法学研究科博士課程
 後期課程単位取得退学
学位・称号 法学修士
所属学会 日本法哲学会

赴任したのが1989年10月でした。教養部の教員として愛媛にきました。専門は法哲学ですが、担当科目は法学と日本国憲法(あと法文学部の夜間主授業の社会科学概論)で、全学部の学生さん相手に開講していました。1996年の教養部廃止にともなって法文学部に配置転換となり総合政策学科の教員として法情報論という科目を担当することになりました。最初数年間は、諸般の事情の余波で、ゼミの担当をしていませんでしたので、当初は法文学部の学生さんの指導教員となることはなく、相変わらず教養部所属のときのような学生さんとの付き合いでしたが、東京での同窓会の集まりで受講されていた方に出会い、受講のお礼をいわれて恐縮したりもしました。夜間主に来ておられた看護師さんたちに夕食会に誘っていただいたのも懐かしい思い出です。幹事をしていたTさん、お元気でしょうか。

教養部所属の頃、課外の読書会などをした学生さんたちとは、途切れ途切れに音信の続いていることもあります。医学部のOさん、Tさん、法文学部のKさん、Oさんなどです。音信は途絶えていても強く気持ちに残っている学生さんもいます。教育学部のHさんはアメリカの大学に進学する際に推薦状を書いたりもしましたが、今は音信不通です。工学部のAさんは残念なことに在学中に事故死されました。法文学部の(上記のKさんとは別の)Kさんも、大学院に進学し卒業後に司法書士になられて数年後、残念なことに病死されました。資格獲得後に挨拶に来られてお礼にといただいた折りたたみ傘は今も大事に使っています。

法文学部に転籍となったあと、ゼミに所属してくれた学生さんは当然として、大学院院生として受講してくれた学生さんたち、法科大学院の未習論文試験の課外演習であった法文の学生さんたち、サークル活動の縁で知り合いになれた学生さんたち。愛媛大学で出会えた学生さんたちの思い出はつきません。

幸せな36年間でした。ありがとうございました。



西 耕生先生

- ① 1997(平成9)年4月
- ② 法文学部人文学講座
- ③ 日本古典文学(とくに平安時代の文学とその受容)

出生地 兵庫県淡路島
最終学歴 大阪市立大学(現大阪公立大学)大学院
 文学研究科後期博士課程(国文学専攻)
 単位取得退学
学位・称号 文学修士・愛媛大学名誉教授
所属学会 和歌文学会、中古文学会等

訓詁・注釈・文学史——自ら祖述して考える文献実証の醍醐味をもっと窮めたいと進んだ遊学先から舞い戻り、古典を講ずる立場に立って28年。好きこそものの上手なれを信条に、学生と共に作品のより興味深い解釈をめざすべく言葉遣いへの注意深さに勤しんで「みそとせのあなたにもなりにける世かな」(『源氏物語』朝顔)を実感しています。

学究面では着任後、専門領域が広がる時機に恵まれました。『伊勢物語抄』『西行聞書』等の貴重書を披見して着想を得た今治市河野美術館での館蔵資料調査や、「遍路」の語原を巡り古語「へち」に辿り着いた四国遍路と世界の巡礼研究会への参加等々。愛媛県高等学校教育研究会図書部会や国語部会に招かれ、映画『君の名は。』や大河ドラマ『光る君へ』を枕に仕込んだ講演も、瓢箪から出た駒であったかと思ひ合せられます。

教学を含めた職務面では、教育・教職両コーディネーターの統括や自己点検評価等に携わった折節、支えてくださった教職員の方々には本当に感謝しきれません。同窓会提供講座「社会と人間」の世話人を数年連続担当した際には、同窓会の皆さんにも大変御世話になりました。ここに御礼申し上げる次第です。

さて、学外講座で知遇を得て始まったコムズ(松山市男女共同参画推進センター)での源氏物語講読の愛好会もはや23年目、目下、若菜下を読み進める一方、松山三越での枕草子の講座も4年目を迎えました。おかげさまで、平安古典を読み継ぐことがライフワークとなっています。思いきや、エンタープライズ、かぐや姫、シャトルに昴、パキスタン、モルゲン、ロングetc……昔馴染の店の名を思い浮かべては細小蟹のインターネットやケータイのあまねき時代に生かされようとは。

Words Are My Matter. (アーシュラ・K・ル＝グウィン『私と言葉たち』)——これからも新たなめぐりに胸ふくらませ、かなふみに親しみ、言葉とそのしぐみを楽しみ読みといていきたいと思ひ描いています。

退職された教員の方々

- ① 愛媛大学にいられた年
- ② 所属の講座
- ③ 研究・専門について



不破 茂先生

- ① 1990 (平成2)年4月
- ② 法文学部社会科学講座
- ③ 国際関係法(私法)及び国際経済法

出生地

三重県四日市市

最終学歴

大阪大学大学院法学研究科

学位・称号

博士(法学)、国際取引法学会理事

所属学会

国際法学会、国際私法学会、国際経済法学会、国際取引法学会



木下英文先生

- ① 1991 (平成3)年10月
- ② 法文学部人文学講座
- ③ 英語語用論、社会言語学

出生地

兵庫県神戸市

最終学歴

関西外国語大学大学院外国語学研究科博士課程後期課程英語学専攻単位修得退学

学位・称号

文学修士

所属学会

International Pragmatics Association、社会言語科学会



シン東風先生

- ① 2000 (平成12)年10月
- ② 法文学部人文学講座
- ③ 中国思想史・中国仏教史

出生地

中国北京市

最終学歴

中国人民大学中国哲学史専攻博士課程修了(1990年)

学位・称号

哲学博士(中国人民大学)

所属学会

中国哲学史学会(中国)、東アジア仏教研究会(日本)、禅籍俗言語研究会(日本)、中韓研究会(韓国)

法文学部教員人事異動

(2024.4.2~2025.4.1)

講座名	氏名	職名	異動年月日
▶社会科学講座	佐藤 智秋	教授(定年退職)	2025.3.31
	野田 裕久	教授(定年退職)	2025.3.31
	不破 茂	教授(定年退職)	2025.3.31
	上山 友一	准教授(定年退職)	2025.3.31
	丹羽 寿美子	講師(転出)	2025.3.31
	太田 響子	教授(昇任)	2024.10.1
	池田 文	准教授(昇任)	2025.4.1
	桑島 翠	講師(採用)	2025.4.1
	高島 麻未	講師(採用)	2025.4.1
▶人文学講座	木下 英文	教授(定年退職)	2025.3.31
	シン 東風	教授(定年退職)	2025.3.31
	西 耕生	教授(定年退職)	2025.3.31
	高橋 千佳	教授(昇任)	2025.4.1
	西尾 善太	講師(採用)	2025.4.1
	前田 宏太郎	講師(採用)	2025.4.1

愛媛大学邦楽部



2024年 定期演奏会

今回は日本の伝統楽器を演奏する邦楽部。その目指すところを一言で言い現わすなら「調和」です。

部員は総勢29名、うち新入生が8名です。大学会館食堂2階奥の和室で何面もの箏を並べ（結構場所をとります）、三絃や尺八のための椅子をいくつも配置し、声が聞き取れないくらいにぎやかです。しかし一つ一つの音色は耳に優しい♪ 何よりも部員たちの真剣な中にふと見せる笑顔、そしてきびきびした動作に心地よさを感じます！ もちろん礼儀正しいことは言うまでもありません。



尺八練習風景

そんな部員をまとめるのは法文学部2回生の丸山道惇さん。全くクラブ経験がないまま邦楽部の練習風景を見た瞬間、「これだ！」と響くものがあったそうです。また箏経験者の3回生中西乃彩さんは、大学でも迷わず邦楽部の戸をたたいたとのこと。この音色豊か、経歴様々、そして個性豊かな邦楽部員を指導するのは、箏曲生田流正派邦楽会の橋本雅百合先生です。和室で先生の指導を受ける時の部員たちの目の輝き！ 皆さんにお見せしたいくらいです。耳を澄ますと絃の重厚で艶のある音や尺八の味わいのある音が聞こえてきませんか？

さて、ここで邦楽部の皆さんも知らないことをこっそりと教えましょう♪ 皆さんは邦楽部がいったん廃部になっていたのをご存じでしょうか？ それを再興したのが故杉山允宏先生（教育学部）なのです。先生は医学博士として体育理論、体育史を教え、研究する傍ら柔道家、尺八の演奏家としても指導的な役割をはたして

いました。その杉山先生と運命の出会いをしたのが、昭和55年当時農学研究科1年に在籍していた都山流尺八の橋本岳人山先生なのです。岳人山先生は、当時学生でありながらリサイタルを行うほどの大演奏家でした。その橋本先生を通して赤松雅楽夫先生という箏の大家を邦楽部に迎えることができました。赤松先生は偶然にも愛媛大学教育学部出身であり、橋本雅百合先生と共に亡くなるまで愛媛大学邦楽部を支えていただきました。

そんな邦楽部も長く続いたコロナの期間には再度存続の危機がありました。集まって練習することができませんでしたの



箏を教え合う

で、とにかく一人でも練習しよう、楽器に触れよう、と必死でした。その当時の皆さんの努力が今日の部員の皆さんの笑顔につながっているのです。今年の定期演奏会は11月22日(土)松山市民会館小ホールで行います。さて部員の皆さんはどのような演奏で「調和」を表現するのでしょうか？

皆さん、是非、是非、足をお運びください。



箏練習風景

(取材：村上 和恵・山本 明美・大和田 風)

学生アンバサダー

今年度は新たに3名がアンバサダーに加入いたしました。
皆さんの学生時代に想いを馳せながらご覧ください。



- ①樋口 法政コース 2回生
- ②読書・スキー・サッカー
- ③広くて様々な分野の本がある
図書館
- ④国際法

→領土問題や条約などニュースで目にする
ことについての理解がさらに深まる
ところが面白いです。

- ⑤授業やサークル、アルバイトに励む毎日を送っています！
- ⑥資格を取得したいです！



- ①寺川 人文学コース 3回生
- ②旅行 ゲーム
- ③テニスコート横の芝生広場
- ④社会学演習
- グループ学習が多いので意見
交換を通じて多様な考え方に触
れることができます！

- ⑤食べて！遊んで！寝て！の毎日
- ⑥北海道の三大都市を巡りたいです！



- ①清水 法政コース 4回生
- ②古墳巡りとホットヨガ
- ③綺麗になった共通講義棟B
- ④海外インターンシップ
- 愉快的な先生がたくさんいらっ
しゃって楽しいです！

- ⑤興味があるものは専攻に関係なく、さまざま
な講義を受講しています！
- ⑥来年から社会人になるので、学生時代にしか
できないことリストを完遂したいです！

- ①苗字・コース・学年
- ②趣味
- ③愛大のここが好き！
- ④好きな授業
- ⑤僕・私の学生生活
- ⑥挑戦したいこと



- ①影山 人文学コース 3回生
- ②友達とゲームすること
- ③共通講義棟Bの近くのテラス
- ④哲学特講
- 近代哲学が変化していく過程
が学んでいて興味深いです！

- ⑤大学では講義に没頭し、家に帰ると趣味
に没頭して、充実した毎日を過ごしてい
ます！
- ⑥就職活動を通して社会を知りたいと思
います！



- ①大塚 法政コース 4回生
- ②ピクニック
- ③ミュージアムカフェのタコ
ライス

- ④英語学
- ヒトが『ことば』をどのように認識して
使っているのかを英語を通して新しい視点
で考えるのが面白いです！
- ⑤韓国語の授業を履修して、韓国研修に参
加したことが印象に残っています！
- ⑥サグラダ・ファミリアを見たいです！

作成：大塚

歴代リクエスト

学内の変化と、
サークル活動編

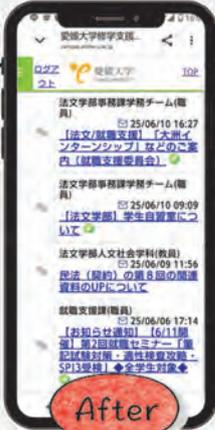
REQ.1 学内の変化について知りたい。



Before



After



掲示板にも電子化の波が…

図書館北側に設置されていた各学部の掲示板ですが、昨年10月31日をもって廃止となってしまいました。そのため学生は、修学支援システムというサイトから休講などの様々な情報を入手しています。ただ、共通講義棟Bのエレベーター近くに法文学部生向けの検定の案内や就活情報のお知らせの掲示板があります！

樋口

法文学部生にはおなじみの、共通講義棟Bがリニューアル！

昨年度より改修が進められていた共通講義棟Bが、今年3月にリニューアルを終え、新たに開放されました。壁や床も美しくなり、雰囲気も一新。法文学部本館に近く、多くの授業が行われることもあり、学生の間では「待ち遠しかった」との声も聞かれました。

綺麗な教室で受ける講義は、より集中して臨める気がします。

影山

Before



After



REQ.2 サークル活動や学生祭の様子について知りたい。



サークル活動や学生祭の様子について



石鎚山頂上の景色

私が所属するワンダーフォーゲル部では、毎週の定例会に加えて、月に2回ほどのペースで登山やキャンプやスキーなどのアウトドア活動を行っています。

昨年の学生祭ではホットドッグを販売しました。当日は天候に恵まれ、多くの方にご購入いただき、活気に満ちた大盛況の学生祭となりました！

寺川



学生祭での出店の様子

研究室紹介

社会科学講座

田川 靖紘 准教授

刑法

Q：先生のご専門について教えてください。

A：私の専門は、法律学の中の刑法という分野になります。刑法では刑法典の条文を暗記すれば良いというわけではなく、条文の解釈が重要になります。例えば、刑法199条に「人を殺した者」と規定されていますが、この「人」とは何か、ということを考えていきます。つまり、(生物としての)ヒトはどの段階で(刑法典上の)「人」となるのかを考えるのです(具体的には、胎児と人の区別、人と死体の区別が問題となります)。もしかすると、皆様のイメージする刑法とは幾分異なっているかもしれません。

更に踏み込んだ問題関心を2つご紹介いたします。1つめは共犯論における「正犯と共犯の区別」です。簡単に述べると、計画には関与し、実行をしていない者でも正犯(一番悪い者)としてよいか、実行をしている場合でも共犯(正犯を手伝う者)としてよいか、という問題です。

2つめは「子どもの安全」についてです。具体的にはスポーツ事故、とりわけ柔道事故になるのですが、指導の際に事故が起きた場合、その指導者の罪はどうかという研究です。わざと怪我をさせている等でなければ、業務上過失致死傷罪が適用されますが、そもそも刑法を適用するのが適当か(刑事事件が少ないのはどうしてか)、という問題です。

Q：私も武道を習っていたのですが、指導の行き過ぎを疑うこともありました。

A：そういった事例は少なくないと思います。例えば、練習の際に熱中症を疑う症状が出ていたにもかかわらず、練習を続け、死亡事故が起きたケースもあります。その際の指導者の責任はどうか、民事法上の責任だけでなく、刑事法上の責任を問うべきかも含めて研究を行っています。個人的には刑事法上の責任を問うと思います。

Q：ありがとうございました。続いて主なゼミ活動について教えてください。

A：学生は、自分で決めた研究テーマや裁判例の報告等を行っています。そして、ゼミの夏合宿をウェルピア伊予で行っています。1日目は、学生による研究報告を、夜は懇親会をやります。2日目はスポーツイベントをしています。また、ハロウィンにはゼミ生とコスプレしてゼミをします。学生は年によって熱の入りが異なるのですが、この写真の時は、気合が入っていて「カオナシ」のコスプレをした学生もいました。ただ、とても暑かったらしい



ハロウィン会

シリーズ第13回となる今回も、前号でインタビューした先生から「友達の輪」式のご紹介を受け、寄稿していただきました。

ですが…(笑)。私は「ハイキュー!!」のコスプレでしたが、体型を含む見た目が違い過ぎるので女子学生には不評でした。似ていたのは身長だけという…。

Q：大学(学生)や愛媛県印象などはいかがですか。

A：学生は真面目なので授業しやすいです。静かに聴いてくれるので授業しやすいというだけではなく、教室内に規律があり、教員にとっては助かります。愛媛県印象ですが、私にとって最高です。

Q：それは食事とかでしょうか。

A：はい。ありきたりですが、食事が美味しいです。特に柑橘とお魚。こちらに来る前には話半分で聞いていたのですが、いざ来てみたら本当に美味しくてびっくりしました。こちらで過ごして愛媛スタンダードになってしまうと、ミカンも鯛も愛媛県産でないと物足りなくなりました。最近では、甘い醤油でないダメで、だいぶ愛媛に染まっています。

Q：因みに先生はどこのご出身ですか。

A：埼玉です。しかし、松山市は本当に住みやすく好きですね。コンパクトシティとして成立している。全部集約されていてどこにアクセスするのも便利です。移動もそれほど時間がかからない、それでいて必要な物は揃っているという感じで、離れたくないです。

Q：先生のご趣味についてお伺いします。

A：私はアイスホッケーが好きです。見るのもするのも両方です。

Q：そうですか。やるのはイヨテツスケートリンクですか。

A：はい。イヨテツです。ただ、ご存知とは思いますが2026年の12月末で閉鎖してしまいます。割り食ってしまうのは現在氷上のスポーツをやっている子どもたちですね。毎日練習している子も沢山いますから。この子どもたちが今後競技をやめなくてはいけないとか、あるいは県外のリンクに通わなくてはならない状況になるのは不憫だなと思います。アイスホッケーをやっている人間としても何とかならないかとは思いますが、しかしながら、私ひとりの力でどうにかなる問題ではありません。リンク建設には十数億円かかると言われていまして、自治体、企業だけでなく、OB、OG、県民の皆様のお力もお借りして、愛媛県にスケートリンクを設立していただけないかと願っております。愛媛大学にもアイスホッケー部やフィギュアスケート部があるので、愛媛のスケート文化を取り戻すという機運が作れたらいいなと思います。

Q：先生のポジションを教えてください。

A：私はゴールテンダー(GK)です。試合中何度かバックが頭に当たるのですが、意識が飛びそうになりますね。加えて装備品がとても重いです。ゴールテンダーは「氷の上で動かないから寒いのでは?」と思われがちですが、全く逆で、とても暑いです。マスクを取るとふかしたての肉まん状態です(笑)。相手に攻められ続けると、立ったり座ったりを重い防具を着たまま繰り返す、痛いやら暑いやらで、それはもう地獄です。



ゴールテンダー(GK)

Q：最後に同窓生の皆様にメッセージをお願いします。

A：大学という所は、入って、4年で出て行くサイクルを何度も何度も繰り返していますが、目指す理想は不変です。愛媛大学憲章において、愛媛大学は、自ら学び、考え、実践する能力を持つ人、そして、次代を担うという誇りを持つ人を育てる、ということをその使命としています。卒業生の皆様には、大学を卒業されても、本学の理想をさらに追い求めていただき、今お住いの地域のため、広くは御国のために、ご活躍いただきたく存じます。

高橋 千佳教授

応用英語学

Q：先生のご専門についてお聞かせください。

A：分野としては、第二言語習得論と言います。「第二言語」というとわかりにくいので、ざっくりと説明する時には、「外国語」を、習得するあるいは学習する時のメカニズムを解明する分野、と言っています。特に興味があるのは、習得時の個人差がどの様にして生まれてくるのかということです。

Q：早い段階から外国語学習に関心がありましたか。

A：私自身は英語が元々好きなタイプでした。大学の第二外国語としてはスペイン語をやり、一生懸命勉強を続けてメキシコやスペインに短期留学にも行って見ました。その後、フランス語、ポルトガル語、ドイツ語とやってみましたが、なかなかうまくいきませんでした。ですから、上手くいく時もあればいかない時もあるというのは、一学習者として実感があります。あと、この分野に興味を持ったきっかけは、社会人として7年程NHKのラジオやテレビの英語講座を作る仕事をしていたことですね。その時に経験したのが、何の強制力もない講座番組で上級者になる人もいるし、すぐにやめてしまう人もあるということ、それが言語習得時の個人差を考えるきっかけになりました。

Q：先生の著作を拝読させて頂きました。主な登場人物であるお二人の多言語習得に対する熱意に圧倒されました。

A：二人はどちらも、それぞれの言語にはその言語にしかない独自性とかニュアンスがあると分かっていて、その言葉をそのまま理解したいということが、彼らの多言語学習の原動力になっていたと思います。

Q：大学では、特に元の言語で理解すること、読むことが重視される気がします。

A：読む楽しさや重要性は、海外の調査からはなかなか出て来ません。まず話すことが出て来ます。話す力については、日本においても一定の重要性とか興味を持たれていると思います。一方で、大学の様な場所では、読むことの重要性が凄く認識されていると思います。他の3技能は余り出来ないけれども読めるという人はいますよね。でも、特に、私の専門である動機づけとよばれる分野において、読む重要性を指摘している研究は少ないと思います。日本の英語教育はよく批判されますが、高校までしっかり基礎を叩きこまれて、学術論文の様なかなり難しいものを読まされても、きちんと訳せる力がついてる人も結構いると思います。

Q：理想の自己を保ち実現して行く二人の力もまた凄いですね。

A：研究の世界では、調査した内容が一般化出来るのかということがしばしば問われますが、どちらかという私は、日本の様な外国語が身近にない環境でもここまでいける、ということを示したかったというのがあります。ですから、環境のせいにするのではなく、自身の力で上手くいった例から、学べるのがこんなにあるよということは伝えたかったです。



9年のインタビュー調査をまとめた本

Q：努力し続けることも重要ですか。

A：言語学習は、短時間で終わる種類の学習ではないですよね。やはりどの言語でも初級から始めて或る程度の力を着けようと思ったら、結構時間が掛かると思います。自分の満足のいく学習の結果を得られるかどうかという面でも、継続出来るかというのは凄く重要な要素である分野だと思います。

Q：ありがとうございました。ゼミ活動はいかがでしょう。

A：授業では基本的に、第二言語習得分野の英語の論文と一緒に読んでいます。例えば私がハワイ大学の大学院に行っていた時に読んでいた論文等です。読むスピードを遅くしているのですが、読む物の質は同じなので、正直、なかなか難しいと思います。ですが、学生さんはそれを3年程度頑張って読み込むので読む力が着くと思いますし、小さい頃から英語を勉強して来てその過程を自分で振り返るとか、今後の自分の英語なり他の外国語なりの学習について分析する枠組みのようなものを提供しています。

Q：学外に一緒に出かけることはありますか。

A：コロナの前にはハワイ大学に短期で引率していったこともありますが、コロナ禍になってからは専らオンラインで交流を続けてきました。今後は、短期研修を再開したいと考えています。

Q：先生は元々愛媛県のご出身とお聞きしました。

A：中学まではずっと松山で育ちました。家族の転勤で高校から外に出て、そのうち幸運なことに愛媛大学に着任させていただきました。もう11年になります。

Q：学生の雰囲気などはいかがですか。

A：法文の学生さんは真面目だと思います。授業をやっているもそれは思いますし、毎日接していて楽しいですね。

Q：資料室等で交流はありますか。

A：最近、専門演習で読んでいる論文の勉強会を学生さんのみでやっていて、私が研究室にいとチョットワカランと呼ばれたりもします。また卒業してからも連絡をくれたりとか、いつからか恒例になりましたが、社会人一年目の元ゼミ生が夏頃に在学生とオンライン同窓会を行っています。

Q：先生のご趣味は何ですか。

A：ドラムとピアノを演奏することですかね。ドラムはずっとやってみたかったのですが、コロナ禍で家で楽しめることをと思ったのが、始めるきっかけになりました。自宅にドラムセットも買って、レッスンに通っています。ピアノの方は、去年の夏に娘の発表会を見に行った際に、大人の人たちがすごく楽しそうに弾いていらっしやるのを見て刺激を受け、25年ぶりに再開しました。それから、土曜日はダブルレッスンの日々です。



レッスン室にて

Q：最後に同窓生の皆様にメッセージをお願いします。

A：私としては、教え手になってアウトプットが増えていますが、インプットの機会は減っています。学べるっていいなああと改めて実感することが多いです。外国語学習などは教育機関に属してなくても、YouTubeなどで教材があると思いますし、何歳までじゃないと始めてはいけないといったことも全くありませんので、何語であってもきっかけがあれば始めてみたら楽しいのではないのでしょうか。

Career Report



NHKアナウンサー
永井 克典
[1996年 経済学科卒業]

同窓会誌をご覧の皆さま、はじめまして。愛媛大学法学部を卒業してNHKでアナウンサーをしています永井克典と申します。この執筆の依頼を受けたタイミングと偶然重なったのですが、先日も（5月下旬）母校・愛媛大学で現役学生の皆さん向けに、NHKでの仕事について話をすることがありました。改めて振り返ってみると、松山東高校から愛媛大学を経て、ことし（2025年）4月、NHK入局30年目を迎えていました。大学で話をした際にも話題になったのですが（少なくとも私がNHKに入局後の30年間）NHK職員のアナウンサーで、かつ愛媛大学の卒業生は私ひとりです。できることなら愛媛大学出身のNHKアナウンサーの後輩が出てきてくれればと期待しているところです。



NHK「特別座談会」@愛媛大学
（2025年5月開催/法文学部生対象/
城北キャンパス大講義室にて）

どんなキャリアで、どんな仕事をしてきたのか。NHKに“つきもの”の異動（転勤）歴などと併せて自己紹介いたします。まずは局歴から。最初の勤務地のことをNHKでは“初任地”と呼びますが、私の初任地は同じ四国、お隣の「高知」でした。丸3年勤め4年目に入っただけで初めの転勤になり、ふるさと「松山」での1回目の勤務が始まりました。その松山勤務は4年半で、当時愛媛県内にあった70市町村すべての地域から生中継する番組などを担当しました。その後、瀬戸内海を渡り対岸の「広島」でも4年半勤務しました。その後「大阪」で2年、そして2回目の「松山」に戻り4年、その後「東京」へと異動しました。東京では5年勤務したあと、いわゆる管理職（最近NHKでは基幹職という呼び方です）となり、初任地「高知」で4年、現在は「松山」で3回目の勤務となり、まもなく3年目に入るところです。

NHKに入局して、これまでのところ“アナウンサーひと筋”で仕事をしています。少なくとも2つのターニングポイントがあったと感じています。

ターニングポイントの1つ目は、大阪から2回目の松山に異動したときです。年齢でいうと、ちょうど30代中盤から後半に差し掛かるころ。アナウンサーとしての基礎力を高め磨きながら、このころまでの主な担当は「スポーツ中継」でした。高校野球、プロ野球、テニス、バレーボール、競馬など、さまざまな競技を中継する経験を積むことができました。中でも印象深いのは、甲子園球場での高校野球やプロ野球の中継、テニスの聖地とも呼ばれる「ウィンブルドン」現地からの中継などです。それが、松山2回目の勤務となると同時に、夕方のニュース情報番組（当時は“いよかんワイド”“いよ×イチ”）の番組キャスターに就任し

変じます。その後も金曜夜に四国向けに放送する“四国羅針盤”キャスターを担当し、東京への異動後も報道分野の番組、夜10時台のラジオ全国放送“NHKジャーナル”のほか、総合テレビの“ニュースチェック11”などでニュースを担当するなど、仕事の内容は大きく変わりました。

2つ目のターニングポイントは、東京での勤務時です。ちょうど平成から令和に変わるころ、年齢としては40代



ニュース（NHK松山/2025年6月）

前半から中盤に差し掛かるタイミングでした。毎年4月、NHKも新人アナウンサーを迎えます。近年おおよそ2か月にわたる研修を受けて各地域に配属されるのですが、その研修で中心になって指導する役割を務めることになったのです。正直なところ戸惑いました。これまでは、経験を重ねながら自身のスキルを磨くこと、放送を成功させることを中心に考えて仕事をしていました。ところが、経験やスキルなどを振り返りつつ、新人の皆さんにどうすれば伝わるか、分かりやすいか、また年齢が大きく離れた新人の皆さんとの接し方など、実に多くのことを考え、学ぶことにつながる貴重な機会だったと感じています。そして、その研修の指導役を終え新人たちを初任地へ送り出すと同時に管理職の役割を担うことになりました。

NHKは地域ごとに“拠点局”と呼ばれる大きめの放送局があり、四国では「松山」がそのポジションです。松山局はアナウンサー、記者、技術などの職員が365日・24時間必ず勤務する体制を組んでいます。現在、私のメインの業務としては、松山局で働くアナウンサーのシフトを組み、さまざまな番組担当者やスケジュールなどを調整し、そのシフトを随時組み替えながらつつがなく放送する、かつアナウンサーが仕事をしやすい環境にしていくことです。具体的には、宿泊勤務は誰、早朝勤務は誰、この番組の担当は誰など、誰にどの仕事を担当してもらうか、限られた人員の中で悪戦苦闘しつつ、時には、番組や企画レポートなどの監督・監修役の業務なども行っています。



坂の上の雲トークショー
（2024年11月開催/12月放送/NHK松山スタジオにて）

ここ最近「テレビはオワコン」（＝終わったコンテンツ）と表現されることが少なくありません。しかしながら、ネットが普及し多種多様な情報があふれる時代だからこそ、NHKでなければ発信できない番組や情報があるのではないかと考えています。いちアナウンサーとして、いち放送人として、微力ではありますが、正確で信頼するに足る番組や情報をひとりでも多くの皆さんに、これからも変わらず届けていきたいと考えています。



ひめDON・道後温泉完全復活SP（2024年7月放送）

Career Report



済生会松山病院
西村 明子
[2009年人文学科卒業]



医療の仕事に励む西村さん

今から20年前の2005年4月に、私は愛媛大学法文学部人文学科の夜間主に入学しました。看護師として働きだしてから数年が立ち、看護以外の勉強がしたいなという思いと、大学で勉強がしたいとの思いで愛媛大学に入学しました。講義を受けていく中『社会学』に興味を持ち、当時社会問題にもなった「救急車のたらいまわし」の実情をテーマに卒業論文を作成しました。あまり本を読まない私ですが、本や新聞を読みあさり情報収集を行ったり、TVで特集をされれば、担当者へアポイントを取り、話を伺いに行ったりとアクティブに行動していました。また、自分が住んでいる松山市の救急の実情を知るため松山市の消防局へ話を聞きに行った際は、「看護師免許があるなら救急車の同乗実習を行ってみる？」と教えてください、何度か8時半から翌8時半の24時間市内の消防署に待機し、119番要請があれば救急隊と一緒に現場へ行き、生の現場を見させていただきました。

思い返せば、大学生での学びは私にとって貴重な体験となりました。

現在は、救急患者を受け入れる側で働きたいと、大学卒業後今の病院へ転職しました。今は、急性期病院ではなく、「地域包括ケア病棟」いうところで勤務しています。

地域包括ケア病棟とは、2014年度診療報酬改定により新たに認められた制度です。急性期の治療を終えた患者や、自宅や施設で療養中に緊急の入院が必要になった患者、直ぐに在宅や施設へ移行するには不安のある患者に対して、治療と共に在宅復帰に向けて支援したり準備したりする病棟です。主治医、看護師、専

従リハビリスタッフ、在宅復帰支援担当者（医療相談員）等が協力して、効率的に患者のリハビリや在宅復帰支援（相談・準備）を行っていきます。2024年度の診療報酬改定より入院期間は、60日までは算定出来ませんが、41日目以降は減算となりました。患者の状態及び在宅サービスが整い次第退院となります。

急性期の病棟では、どちらかといえば治療が優先になります。今までどのような生活をしてきたか（一人暮らしかそれとも家族と一緒に。介護保険は持っているか。家事は誰がしているか。家に段差はないのか）情報収集を行い、自宅退院を希望する場合は家族やケアマネージャー・訪問看護師等と連携を取り、安心して退院できるよう関わっています。

プライベートでは、いつ来るか分からない災害に備えガスコンロ・ガスボンベ・寝袋・テーブルなどを集めていくうちに、テントがあればキャンプができるのではないかとテントを買い、今では「災害グッズの点検」との名目で気候がいい時は愛犬とキャンプに行っています。もともと国内旅行が好きで、いろいろな所へ行きおいしいものを食べたいと考えていましたが、コロナ禍で制限がかかり、またコロナ後でも愛犬と泊まる場所も限られるためキャンプをはじめました。

今年は、私もいつまでも若くないので、親と愛犬を連れて富士山が見えるところへ行き、おいしいものを食べながらのんびり過ごす予定です。



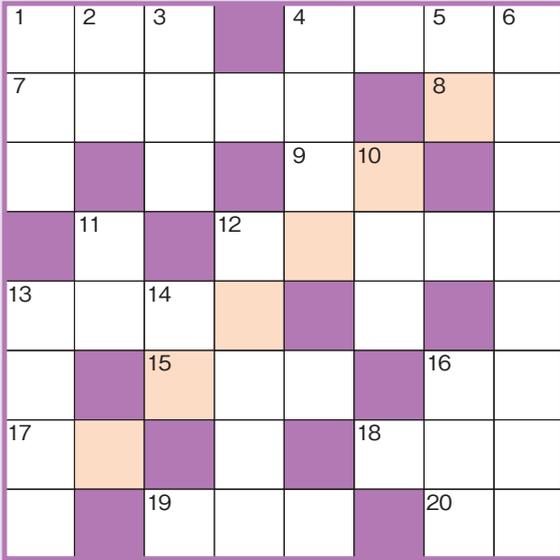
今でも看護師の研鑽を続ける



愛犬との旅行を楽しむ

問題

クロスワードの色がついた部分の文字を並べ替え、愛媛県に
ある場所の名前を教えてください。



(出題：H16卒・矢野彰大氏)

●ヨコのかぎ

- ①星は○○○。ひこぼし。ゆふづつ
- ④ひらめき
- ⑦共感。同情
- ⑧千の十倍
- ⑨錠。音階
- ⑫地歴公民
- ⑬安土○○時代
- ⑮シネマ
- ⑯ドイツ語の「a」
- ⑰夏の間
- ⑱ラジオ体操第一より運動強度が高いとされる
- ⑲調理手順書
- ⑳流れた量で時間が計れる

【解答】

●タテのかぎ

- ①寿司に使った合わせ酢
- ②荷物を運ぶ箱形の車
- ③怪盗アルセーヌ
- ④中央アジアからインドに侵入した民族
- ⑤流言飛語
- ⑥トルストイの小説
- ⑩ドラゴンボールの立ち食いそばを食べる方
- ⑪類は○を呼ぶ
- ⑫松山市とフライブルク市
- ⑬大腿筋挫傷。桃の缶詰
- ⑭幕末のジャンヌダルク
- ⑮新島○○
- ⑯流石なアザート

応募方法

同封の応募ハガキに解答をご記入の上、**2025年11月28日まで(必着)**に本会あてお送りください。

賞品

図書カード1,000円分 25人

第28号 パズルの答え

正解：
ポツチャンレッシュヤ
(坊っちゃん列車)



パズル等の解答にいただいた個人情報、同窓会事務局が適切に管理し、賞品の発送および名簿データの更新にのみ使用いたします。

前回パズル当選者(敬称略)

解答者 107人中、正解者 105人

図書カード1,000円分 (25人)

(敬称略)

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 猪川紘佐久 (S40) | 西川 恵三 (S44) | 豊澤 正則 (S48) |
| 井上 俊夫 (S49) | 前原 昌和 (S51) | 蔵本 修 (S54) |
| 重松 省三 (S58) | 三好真寿美 (S58) | 藤田 寛可 (H05) |
| 幸地 森梧 (H07) | 石井 博 (H10) | 笹岡 岳 (H12) |
| 篤本 美幸 (H15) | 山本さやか (H17) | 向井正治郎 (H18) |
| 松井健太郎 (H19) | 崎山 佳美 (H22) | 岩田 祥佳 (H24) |
| 藤池 真美 (H24) | 高月 佳弥 (H26) | 天田沙斗子 (H27) |
| 尾崎 淳志 (H27) | 明賀 真美 (H29) | 水本 美咲 (H30) |
| 青山友里阿 (R05) | | |

役に立った記事、面白かった記事ランキング

1位は卒業生から(25人)、2位はインド体験あれこれ(22人)、3位は学生アンバサダーが答える、歴代リクエスト(16人)、4位は俳句コーナー、研究室紹介(15人)、6位はCareer Report(13人)、7位は学生アンバサダー(10人)、8位は支部だより(9人)、9位はサークル紹介、パズル(8人)、10位は同窓会提供講座(7人)、以下、青い地球交流記、退職された教員、同窓生からの寄稿文(6人)、表紙、愛媛大学学歌(5人)など

意見・感想

お褒めやお礼、励ましの言葉をたくさんいただきました。

- 会報が届くたびに学生生活を思い出し、学んだことを活かしているかなと思い返しています。
- 「インド体験あれこれ」は少々読み取るのが難しかったが、インドでの異文化体験が語られていて、面白く読ませていただいた。
- 「Messages from Alumni」を読み、各々の職場で力強く働く若い卒業生の姿に感動し、生きる励みになった。
- 内容はもちろんですが、表紙の写真も楽しく拝見しています。ライトアップメイプルロードを見に行きたいなと思いました。
- 学生アンバサダーはとても良い取り組みだと思う。今後も頑張ってください。
- 19ページ、ビワの木が今もなお残っており感慨深い。
- 知っている先生方が載っていると、お元気そうだとうれしくなります。

お詫びと訂正

前号「卒業生から」の中に誤りがありました。

16ページ右下から11行目(誤)「15年」→(正)「5年」

関係各位にご迷惑をお掛けしましたこととお詫びするとともに、ここに訂正させていただきます。

主なリクエスト

- 『四国遍路の世界遺産化』に向けた取り組み・研究について特集してほしい!!
- 同窓生皆さんの現在から将来の展望ある「キャリアレポート」のような記事をより多く拝読出来るよう、お願いいたします。
- 卒業式と入学式の写真、できれば多く掲載してもらえたらうれしいです。
- 紙の良さもあるが若手にはLINEやインスタなどのSNSの方が馴染みやすいと思うので、もっと充実させてほしい。
- 学祭の様子が知りたい。
- 大学の建物が昔に比べ大幅に変わっており、昔と現在の比較図があればうれしいです。

【編集後記】

- 関東支部(東京章光会)定期総会に参加し、多くの同窓生と懇談できました。猛暑の中でしたが、若手職員向けの取り組みもあり、参加者も年々増加しているようです。県外の読者にも学内の状況や同窓生の近況を伝えたいと思います。(同窓会長 黒河)
- 今年も編集委員会にかかわることができ、嬉しく思います。皆様の応援のおかげで今年も楽しく活動することができました。来年度からは同窓会にも関わりながら、社会人も頑張りたいです!(学生アンバサダー 清水)
- 昨年に引き続き、同窓会報の作成に携わることができて、嬉しく思います。昨年担当したページに「面白かった」というお声をいただいて、とても嬉しく、やりがいを感じていました。4回生で卒業になりますが、卒業後も同窓会活動に携わりたいと思っていますので、よろしくをお願いします。(学生アンバサダー 大塚)
- 今回初めて編集作業に参加させていただきました。その中で、編集委員の皆様、同窓会報をより良くしようという気持ちや、同窓生の方々の、同窓会への愛情を感じました。改めて、この学部に入れて良かったと思っています。今後も、学生アンバサダーとして様々なことを学び、その学びを皆様に還元できるよう、頑張ります!(学生アンバサダー 影山)
- 今回初めて同窓会報の作成に携わらせていただきました。編集を通し、改めて本学の魅力を再発見しました。同窓生の皆様と母校を結ぶ架け橋として、母校の「今」を楽しくお伝えできるよう、来年度も精一杯頑張ります。今後とも応援よろしくお願いします。(学生アンバサダー 寺川)
- この度、学生アンバサダーとして同窓会報の作成に参加させていただきました。自分は、夜間主であるため授業の関係で編集委員会になかなか参加できない状況でした。ですが、他のアンバサダーの方々の力を借りてここまでたどり着くことができました。本当に感謝の思いでいっぱいです。来年度もベストを尽くして頑張りますので、よろしくをお願いします。(学生アンバサダー 樋口)

発行 2025年9月
 発行者 愛媛大学法文学部同窓会
 編集 愛媛大学法文学部同窓会編集委員会
 事務局所在地 〒790-8577 松山市文京町3番 愛媛大学法文学部内
 TEL 090-1002-6376
 印刷 アマノ印刷